

道央広域連携地域 【地域づくり推進ビジョン】 (案)

(空知地域、石狩地域、後志地域、胆振地域、日高地域)

I. 地域のめざす姿

II. 地域のめざす姿に向けた施策の方向

道央広域

連 携 地 域

道央広域連携地域「地域づくり推進ビジョン」

空知総合振興局

石狩振興局

後志総合振興局

胆振総合振興局

日高振興局

札幌開発建設部

小樽開発建設部

室蘭開発建設部



空知管内 夕張市、岩見沢市、美瑛市、芦別市、赤平市、三笠市、滝川市、砂川市、歌志内市、深川市、南幌町、奈井江町、上砂川町、由仁町、長沼町、栗山町、月形町、浦臼町、新十津川町、妹背牛町、秩父別町、雨竜町、北竜町、沼田町

石狩管内 札幌市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、当別町、新篠津村

後志管内 小樽市、島牧村、寿都町、黒松内町、蘭越町、ニセコ町、真狩村、留寿都村、喜茂別町、京極町、倶知安町、共和町、岩内町、泊村、神恵内村、積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村

胆振管内 室蘭市、苫小牧市、登別市、伊達市、豊浦町、壮瞥町、白老町、厚真町、洞爺湖町、安平町、むかわ町

日高管内 日高町、平取町、新冠町、浦河町、様似町、えりも町、新ひだか町

I. 地域のめざす姿（概ね10年）

- 高い食料供給力、魅力的な観光資源、豊富な再生可能エネルギーといった道央圏が持つ資源等を最大限に活かすべく、北海道型地域構造の保持形成による域内経済圏の発展をめざす。
- 高い価値を持つ文化・歴史を受け継ぎながら、デジタル関連産業の集積など本道をリードする中核エリアとして、次の世代を見据えた持続可能な発展をめざす「道央広域連携地域」

- ・ 空港・港湾などの物流拠点や大学・企業等の研究・開発機能が集中する立地環境の優位性を活かした半導体などデジタル関連をはじめとする産業集積の促進及び産学官金連携の推進により、本道経済をリードする産業の活性化と雇用の場の創出や産業人材の確保・定着に取り組みます。
- ・ デジタル技術の活用やブランド化の推進により、地域の特色を活かした多種多様な農林水産業の持続的発展を図るとともに、豊かな自然・資源を活用し、脱炭素化や経済の活性化の両立を図り、持続可能な地域づくりを推進します。
- ・ 新幹線札幌開業も見据えながら、全国的に有名な温泉地、アイヌ文化、ジオパーク、産業遺産、縄文世界遺産、国立・国定公園など多彩な地域資源を活用した観光振興や文化・歴史の継承・活用を図ります。
- ・ 防災・減災、国土強靱化に資するインフラ整備、持続的な地域交通・物流の維持確保、地域医療の充実や子ども応援社会の推進など、安全・安心で住みよいまちづくりを進めます。

II. 地域のめざす姿に向けた施策の方向と現状・課題

- ① 誰もが健康で安心して暮らせるまちづくりの推進
- ② 「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた、豊かな自然環境と調和する地域社会の構築
- ③ 地域の特色を活かした多種多様な農林水産業の展開
- ④ 半導体・デジタル関連産業の集積をはじめ、本道経済をリードする産業の活性化
- ⑤ アドベンチャートラベルの推進など、多彩な地域資源を活用した観光の振興
- ⑥ 地域固有の文化や歴史の継承・活用
- ⑦ 交流を支える基盤整備の促進

ビジョンの進め方（横串）

- リアルとデジタルのハイブリッドによる北海道型地域構造の保持・形成
 - 食料生産は実際にその場に住民が住み続ける、観光は実際にその場に行くというリアルを前提に成立しており、リアルを支えるインフラが必要不可欠です。また、生活環境を維持するためには、時間と空間の制約を克服できるデジタル技術の活用が有効です。
- 実効性を高めるための進め方
 - 官民の垣根を越えた「共創」、社会変革の鍵となるDX・GXの推進、フロンティア精神の再発揮、戦略的・計画的な社会資本整備

Ⅱ. 地域のめざす姿に向けた施策の方向と現状・課題 ①誰もが健康で安心して暮らせるまちづくりの推進

地域の主な施策の方向

- ・ 広大な北海道に適したデジタル基盤の整備
- ・ 必要なサービスをデジタル技術で享受できる社会の形成
- ・ 人への投資と多様な人材・主体による共創
- ・ 多様な暮らし方・働き方の実現
- ・ 生産空間の暮らしを支える中心市街地の形成と賑わいの場の創出
- ・ 安全・安心な移動環境の確保
- ・ 気候変動に伴い激甚化する水災害に対する北海道の地域特性を踏まえた流域治水の推進
- ・ 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震等の大規模災害に対する生産・社会基盤の強靱化
- ・ 冬期災害や複合災害に対する防災力の強化
- ・ デジタル技術を活用したインフラの維持管理及び技術開発の推進
- ・ 災害時におけるライフラインの機能確保に向けた施設の耐災害性強化及び多重化・分散化
- ・ 国家的規模の災害時におけるリスク分散
- ・ 新たな感染症への対応も考慮した地域における医療連携や救急医療体制の充実などによる医療提供体制の充実
- ・ 新規卒卒者等の地元就職・定住の促進
- ・ 若い世代の地元定着や出産・子育てをしながら働き続けられる環境づくり等に向けたテレワークをはじめとした多様で柔軟な働き方の推進
- ・ 買い物支援、交通ネットワークの充実に向けた検討など、若い世代だけでなく、高齢者も健康で暮らしやすい環境づくりの促進
- ・ 国際感覚やコミュニケーション能力を備えたグローバル人材やシビックプライドの醸成を通じた次世代リーダーなど、地域を支える多様な人材の育成や確保
- ・ 首都圏で生活する幅広い世代に向けて地域の魅力の発信や移住に関する関係団体とのネットワークの構築、移住相談、移住体験（ちょっと暮らし等）やワーケーションなどによる関係人口の創出・拡大、移住・定住の促進
- ・ 防災・減災、国土強靱化に資するインフラの整備や、地域防災マスターや自主防災組織の育成、個別事情を踏まえた避難所運営などによる地域防災力の強化

地域の現状・課題

- ・ 北海道は、全国に先んじて人口減少が進んでおり、定住人口のみでは、地域経済の活性化やコミュニティの活力維持が困難となっていくことが懸念されます。
- ・ 地方部の市街地には、日常的なサービス機能を維持する役割、圏域中心都市には、高次な都市機能・生活機能を維持する役割があります。食、観光、脱炭素化等の北海道の強みを生み出す生産空間で暮らし続けるためには、暮らしや活動を支える圏域中心都市や地方部の市街地がその機能を果たし、地域特性を活かした持続可能な地域形成を図ることが必要です。
- ・ 感染症拡大によりテレワークが普及し、二地域居住・地方移住、兼業・副業への関心が高まるなど、暮らし方・働き方が多様化しています。
- ・ 北海道は、全国の他地域に比べ、気候変動の影響が大きいと予測されており、水害、土砂災害の激甚化・頻発化のほか、渇水の頻発化・長期化・深刻化が懸念されています。
- ・ 日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震が切迫しており、北海道において甚大な被害が想定されていることから、巨大地震・津波への備えが急務となっています。
- ・ 人命に関わるような暴風雪や大雪等の冬期災害が激甚化・頻発化しており、広域分散型の地域構造で道路網密度の低い北海道では、通行止め等による人流・物流の寸断等の大きな社会的影響が懸念されています。
- ・ 高度経済成長期から集中的に整備されてきたインフラの老朽化が、加速度的に進行しています。特に北海道では、積雪寒冷の厳しい気象条件や土壌条件等を踏まえたインフラ維持管理が必要です。
- ・ 自治体病院・公的病院等は、少子高齢化や都市部への人口流出、さらには、医師の不足や地域偏在などを背景に、その経営環境は依然として厳しい状況にあるほか、新たな感染症への対応も考慮し、関係機関による連携体制の強化などに取り組んでいく必要があります。
- ・ テレワークの推進など多様な働き方を推進し、若い世代の地元定着、結婚・出産・子育ての希望をかなえるとともに、高齢者など誰もが健康で安心して暮らせるまちづくりに取り組んでいく必要があります。
- ・ 集落やコミュニティの活性化と空き家の利活用、コンパクトなまちづくりの推進、地域を支える多様な人材の育成や確保に取り組んでいくとともに、地域の「しごと」、「住まい」、「暮らし」の情報を一元的に提供し、移住・定住の取組を推進していく必要があります。
- ・ 近年の激甚化する自然災害や新たな感染症などに備え、防災・減災に資する河川や海岸などのインフラ整備、避難路や緊急輸送道路などの安全で確実な交通ネットワークの整備を推進するとともに、個別事情に配慮した避難所運営、避難行動要支援者対策や自主防災組織の育成、継続的な防災訓練の実施など地域防災力を強化していく必要があります。

Ⅱ. 地域のめざす姿に向けた施策の方向と現状・課題 ②「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた、豊かな自然環境と調和する地域社会の構築

地域の主な施策の方向

- 北海道の地域特性を活かした持続可能な脱炭素社会の形成
- エネルギー基地の形成
- 北海道のCO₂吸収力の発揮
- 北海道の特性を活かした自然共生社会の形成
- 資源を最大限に利活用する循環型社会の形成
- 再生可能エネルギーの導入や、水素エネルギーの拠点化、アンモニア混焼による発電、CCUSの技術活用などの取組の促進
- 温室効果ガスの排出削減に向けたカーボンクレジットの推進、森林由来クレジットの活用
- 廃棄物の発生抑制や再使用、資源化の推進、環境保全意識の醸成等、循環型社会の実現に向けた取組の促進
- 多様な主体の参画による木育活動の推進
- 希少野生動植物等の保護や外来種対策など、生物多様性の保全と持続可能な利用を図るため、人と自然が共生する地域づくりの推進
- 持続可能な環境保全農業の確立に向けたクリーン農業や有機農業の推進、堆肥・稲わらなど国内資源の利用拡大

地域の現状・課題

- 北海道には、風力、太陽光、地熱等の再生可能エネルギーが豊富に賦存しています。
- 再生可能エネルギーの導入拡大に当たっては、自然環境・景観との調和、地域との共生に留意しつつ、地域資源の有用活用やエネルギーの地産地消等により地域の活性化につなげることが重要です。
- 北海道は、冬の暖房用の熱需要や広域分散型の地域構造に由来する自動車輸送の需要が高いことから化石燃料が多く使用され、世帯当たりのCO₂排出量が全国に比べて多いという地域特性も有しており、徹底した省エネルギーや電化・エネルギー転換が重要です。
- 北海道はかけがえのない豊かな自然環境を有しており、自然環境を保全するとともに、自然が有する多様な機能を利用しながら魅力ある持続可能な地域づくりを進めることが求められています。
- 再生可能エネルギー等の導入など脱炭素化の取組を進め、持続可能な地域づくりを推進していく必要があります。
- 廃棄物の発生抑制や再使用、資源化を進めるとともに、事業者等における廃棄物の適正処理の推進を図り、環境負荷の少ないライフスタイルを確立していく必要があります。
- 木育の取組を通して森林づくりの関心を高めるため、裾野を広げ、理解度やニーズに応じた木育活動、多様な主体の参画による木育活動を推進していく必要があります。
- 豊かな自然環境を守り育てるとともに、生物多様性の保全と持続可能な利用を図るため、エゾシカやカラス、ヒグマ、アライグマなどの野生鳥獣や外来種対策に取り組み、人と豊かな自然環境が共生する地域づくりを推進する必要があります。

Ⅱ. 地域のめざす姿に向けた施策の方向と現状・課題 ③地域の特色を活かした多種多様な農林水産業の展開

地域の主な施策の方向

- ・ 我が国を先導する農林水産業の生産力強化
- ・ 国内外のマーケットに対応したバリューチェーンの構築
- ・ 持続可能な農林水産業の展開
- ・ 農林水産業の持続性を支える農山漁村の振興
- ・ スマート農業の推進、農業生産基盤の整備や地域を牽引するリーダーの育成など、農業の持続的な発展に向けた土づくりと人づくり
- ・ 地域の特色ある農林水産物やこれらの加工品のブランド力の強化と農水産物をベースとした6次産業化や農商工の連携の推進、国内外への販路拡大
- ・ 地産地消等の推進による地域の農産物の消費拡大
- ・ 新規就業者の育成・確保、高齢者や女性、農福連携など障がいのある方の就労に配慮した環境整備、ICTを活用した作業の省力化
- ・ エゾシカやカラス、ヒグマ、アライグマなどの野生鳥獣被害の防止に関し、広域的に連携した対策
- ・ 秋サケやホタテガイ、ウニ、ナマコ、コンブなどの栽培漁業や養殖業の一層の推進と適切な資源管理の促進
- ・ 生産性向上などによる漁業経営の収益性向上や地域を主体とした新規就業者の受入体制づくり
- ・ 鮮度保持施設の整備などの安全で良質な道産水産物の安定供給と各種イベントをはじめとした消費拡大の取組の推進
- ・ 輸出の減少や価格下落に対する、道産水産物の消費拡大・輸出拡大の取組の推進
- ・ 地域の特性に応じた、CO₂の吸収源として環境側面に配慮した森づくりの推進と、森林整備に伴い産出される道産木材の高付加価値化及び有効活用の促進、地材地消の推進などによる森林資源の循環利用の確立

地域の現状・課題

- ・ 我が国の供給熱量（カロリー）ベースの食料自給率は近年40%程度で推移しており、小麦・大豆や飼料等を輸入に依存していますが、世界では食料や生産資材の価格高騰や輸出規制等の事態が生じるとともに、将来的には食料需給のひっ迫が予測されており、我が国の食料安全保障上の懸念が高まりつつあります。
- ・ 北海道の農業は、地域の特色を活かした多様な農業が展開されており、我が国の食料安定供給等に大きな役割を担っていますが、農業従事者数の減少や高齢化等の生産基盤の脆弱化が懸念されています。
- ・ 北海道の農林水産業・食関連産業は素材供給型の生産が主体であり、付加価値率が低い状況です。
- ・ 持続可能な農林水産業の展開には、地域の実情に応じて生産基盤を維持・保全することが、生産活動の持続的な展開に不可欠であるとともに、広範囲に影響が顕在化する気候変動に対応した生産体制の構築が求められています。
- ・ 北海道の集落は、その大半が農林水産業を基幹産業としており、農地や林地、漁場等の生産基盤と農林水産物や自然・景観等の豊富な地域資源を有し、多面的機能の発揮に重要な役割を果たしていますが、集落の小規模化や高齢化の進行等により、地域の維持が懸念されています。
- ・ エゾシカやヒグマ等の一部の野生鳥獣による観光、農林水産業、生活環境等への被害が深刻化しています。
- ・ 国内外での競争力強化を目指し、生産性や品質の向上に向けた農業生産基盤の整備、多様なニーズに対応した新品種やロボットトラクターやドローン等のICTを用いたスマート農業を積極的に推進していく必要があります。
- ・ 農林水産物やこれらの加工品のブランド化、農水産物をベースとした6次産業化や農商工連携により付加価値の高い商品開発を進めるほか、国内販路拡大や海外への輸出などに、より一層取り組んでいく必要があります。
- ・ 安全・安心で高品質な農産物に対する消費者のニーズが高まっていることから、クリーン農業を推進するとともに、食育や農業体験などを通じて地域の農産物に対する理解の醸成を図り、地産地消に取り組んでいく必要があります。
- ・ 農林水産業の就業者が減少、高齢化していることから、多様な担い手と人材の育成や確保、ICTを活用した作業の省力化により一層取り組んでいく必要があります。
- ・ エゾシカやカラス、ヒグマ、アライグマなどの野生鳥獣による農業被害の減少を図るため、関係団体との連携により捕獲などの取組を強化していく必要があります。
- ・ 秋サケなど主要魚種の漁業生産が減少、低迷していることに加え、トドやアザラシなどの海獣による漁業被害が発生していることから、海域の特性に応じた栽培漁業や養殖業の推進と海獣被害の防止、軽減を進めていく必要があります。
- ・ A L P S 処理水海洋放出に伴う中国等による日本産水産物の輸入停止措置により、ホタテガイ等の道産水産物の輸出の減少や価格が下落したことから、引き続き、国内外での消費拡大や輸出先国の多角化に取り組んでいく必要があります。
- ・ 間伐などの手入れの行き届かない森林が依然として多い状況にあることから、森林施策の集約化による森林整備の効率化と生産コストの削減を進めるとともに、木材産業の競争力強化や林地未利用材の有効活用の促進に、より一層取り組んでいく必要があります。

Ⅱ. 地域のめざす姿に向けた施策の方向と現状・課題 ④半導体・デジタル関連産業の集積をはじめ、本道経済をリードする産業の活性化

地域の主な施策の方向

- ・ 再生可能エネルギーを活かした産業振興
- ・ 経済安全保障に貢献する先端産業拠点の形成
- ・ 地理的・気候的な優位性を活かした産業振興
- ・ 「デジタル関連産業の集積に向けた推進方向」や「北海道半導体・デジタル関連産業振興ビジョン」に基づき、データセンターや次世代半導体、国際海底通信ケーブルなどのデジタルインフラを核としたデジタル関連産業の一大拠点形成や半導体の製造、研究、人材育成等が一体となった複合拠点の実現
- ・ 雪氷冷熱など地域の特性を活かした企業や研究機関等の誘致に向けた取組の促進
- ・ ものづくり産業や食関連産業等の集積の促進や産学官金連携等による産業の創出・育成
- ・ 北海道食品機能性表示制度（愛称：ヘルシーDo）などを活用した食品加工分野での高付加価値化、販路拡大
- ・ 地域の特性を活かしたものづくり産業人材の確保・定着の促進

地域の現状・課題

- ・ 経済・社会の持続的成長を実現するためには、あらゆる社会経済活動に深く関係する半導体・デジタル産業について、時代の変化を的確に捉え、競争力を高める必要があります。
- ・ 諸機能が集中する首都圏等で大規模な災害が発生した場合、首都中枢機能の麻ひ等により我が国全体への影響が懸念されます。
- ・ 豊かな地域社会を実現するためには、農林水産業・食関連産業や観光産業といった基幹産業のほか、北海道の広大な大地や積雪寒冷な気候といった地域特性を活かした産業を育成・振興し、北海道の経済を持続的に発展させることが重要です。
- ・ 地域の産業活性化や雇用の創出のため、首都圏等との同時被災リスクの低さを活かし、地方へのリスク分散の受け皿となる産業集積地域の形成に向けた企業誘致に積極的に取り組んでいく必要があります。
- ・ データセンターや次世代半導体、国際海底通信ケーブルなどのデジタルインフラを核としたデジタル関連産業の一大拠点の形成に向け、企業誘致や産業人材の育成に取り組む必要があります。
- ・ 「地域のものづくり力」の向上を図るため、大学や高等専門学校、産業支援機関などを核とした研究開発拠点の形成や企業力向上に向けた地元企業、金融機関との連携強化、地域資源を活かした新事業・新産業の創出などに取り組んでいく必要があります。
- ・ 海外への新たな市場開拓や、経済波及効果の高い成長産業分野への事業展開などに取り組んでいく必要があります。
- ・ 若者の道外への流出や雇用のミスマッチなどによる人手不足を解消するため、職業訓練の実施や新規卒者の地元への就職や定着の促進などにより、産業の担い手となる人材の育成や確保に取り組んでいく必要があります。

Ⅱ. 地域のめざす姿に向けた施策の方向と現状・課題 ⑤アドベンチャートラベルの推進など、多彩な地域資源を活用した観光の振興

地域の主な施策の方向

- 世界市場に向けた新たな観光コンテンツの創出・拡充と稼ぐ力の向上
- 多様な旅行者の地方部への誘客に向けた安全・安心な受入環境整備
- 自然環境・文化の保全と観光が両立した持続可能な観光地域づくり
- 全国的に有名な温泉地、アイヌ文化、ジオパーク、産業遺産、縄文世界遺産、国立・国定公園など多彩な地域資源を活かした魅力ある観光地づくり
- アドベンチャートラベルやマイクロツーリズム、ガストロノミーツーリズムなどの観光需要に対応した受入体制整備、広域観光の促進、メディアやSNSなどを活用した地域の観光情報や魅力の発信、体験・滞在・通年型観光の推進
- 観光ビジネス人材の育成や、標記の多言語化など外国人向けの観光メニューづくりと外国人観光客の受入体制の整備

地域の現状・課題

- 北海道は、豊富な自然環境・景観を活かした観光コンテンツが存在していますが、旅行需要の季節偏重による端境期の需要創出が課題となっています。
- 自然や歴史文化を掘り起こして北海道の可能性をコンテンツ化するとともに、それらを相互に連携させることで新たな観光コンテンツとして創出・拡充することも重要です。
- 北海道は、自然環境、自然・農山漁村景観、豊富な温泉、ジオパーク、アイヌ文化、北の縄文遺跡、近代の開拓の歴史等、豊富な観光資源を有するとともに、民族共生象徴空間（ウポポイ）、小樽の歴史的建造物といった歴史的資源を活かした観光へのニーズが高い状況にあります。
- 観光資源が広域に分散している北海道においては、移動時のCO₂の排出が課題となっています。
- 北海道新幹線の延伸効果やインバウンド観光による経済効果を地方部へも波及させるためには、ハード面においては地方部への交通アクセスの改善や観光地のアクセシビリティの向上、ソフト面においてはデジタル技術を活用した観光サービスの効率化を始め、外国人等の多様な旅行者が安全・安心に旅行できる環境が求められています。
- アドベンチャートラベルへの関心の高まりなどを踏まえ、ワインや多彩な食を提供する食観光、農村ツーリズムによる都市と農村の交流、エコツーリズム、サイクリング、ラフティング、スキー、乗馬などの体験型観光といった地域資源を活用するほか、地域の観光情報や魅力の発信を更に進めていく必要があります。
- 新幹線札幌開業も見据えながら、全国的に有名な温泉地、アイヌ文化、ジオパーク、産業遺産、縄文世界遺産、国立・国定公園など多彩な地域資源を活かした魅力ある観光地づくりを進めていく必要があります。
- 外国人観光客の誘客のため、W i - F i 環境の整備などの受入体制の充実や、更なる誘客促進に取り組んでいく必要があります。

Ⅱ. 地域のめざす姿に向けた施策の方向と現状・課題 ⑥地域固有の文化や歴史の継承・活用

地域の主な施策の方向

- ・ 自然環境・文化の保全と観光が両立した持続可能な観光地域づくり
- ・ アイヌ文化の振興等の推進
- ・ ウポポイ（民族共生象徴空間）や日本遺産「炭鉄港」、縄文世界遺産など地域固有の文化、歴史、産業などを活かした取組の推進と理解の促進

地域の現状・課題

- ・ アイヌ文化の振興及びアイヌの伝統等に関する知識の普及啓発のほか、地域振興、産業振興、観光振興等を含めた施策の総合的かつ効果的な推進を図るとともに、令和2年7月に開業した民族共生象徴空間（ウポポイ）を拠点として、アイヌ文化の振興・創造、国民理解の促進、アイヌ文化の復興等に向けたネットワークを構築する必要があります。
- ・ 先人たちが守ってきた地域の価値（自然環境・文化）を高め、保存し、次世代に受け継ぐことで、観光を地域の経済や社会の持続的発展につなげ、地域住民が観光による恩恵を実感できることも必要です。
- ・ アイヌ文化（ウポポイ（民族共生象徴空間））、ジオパーク、世界遺産（縄文遺跡群）、日本遺産（炭鉄港構成文化財）など、地域固有の文化や歴史などの財産を地域振興に結びつけ、更なる誘客促進を図り、交流人口の拡大に取り組んでいく必要があります。
- ・ 産炭地域は、高齢化率も高く、日本遺産「炭鉄港」の歴史を後世に語り継ぐ人材の確保に取り組んでいく必要があります。
- ・ 炭鉱遺産を保全しながら他の産業遺産と連携した広域的な取組に発展させ、教育学習ツアーやインバウンドの呼び込みも視野に入れ、交流人口の拡大に取り組んでいく必要があります。

Ⅱ. 地域のめざす姿に向けた施策の方向と現状・課題 ⑦交流を支える基盤整備の促進

地域の主な施策の方向

- ・ 広域分散型社会を支える交通ネットワークの形成
- ・ 産業を支える物流基盤の整備と物流システムの維持・効率化
- ・ 安全・安心な移動環境の確保
- ・ 札幌における交通結節機能と都市機能の強化
- ・ 地域生活や産業及び快適な広域観光を支える交通ネットワークの維持・確保及び充実
- ・ 生活圏交通と幹線・広域交通の接続性向上によるシームレスな交通体系の確保
- ・ 公共交通の利用促進による持続性の確保

地域の現状・課題

- ・ 地方部の日常生活における移動環境の確保は、生産空間に住み続ける環境づくりや観光等の人流の円滑な移動のために不可欠です。
- ・ 北海道の価値を生み出す生産空間での生活を支えるためには交通ネットワークの形成が不可欠です。一方、冬期の積雪寒冷環境下において移動環境が著しく悪化する北海道の交通は、確実性、速達性、定時性に課題があります。
- ・ 北海道の物流においては、長距離・長時間輸送に伴う農水産物等の貨物の品質・鮮度管理、貨物量の季節変動とそれに伴う片荷輸送等が課題となっています。
- ・ 今後、運送事業者の減少やドライバー不足等により輸送力の低下が深刻化すれば、地域物流の確保や生産空間からの食料供給等が困難になると見込まれることから、シームレスかつ持続可能な物流ネットワークが重要です。
- ・ 北海道新幹線の札幌延伸等を見据え、札幌駅周辺、創成東地区等における交通結節機能や、道内各地を結ぶ高規格道路と札幌都心とのアクセスを強化するとともに、高次都市機能の強化を図る必要があります。
- ・ 交通ネットワークの維持・確保を図るとともに、災害時の避難路整備など、交通ネットワークの形成に向けた取組を進めるほか、交通・物流ネットワーク充実にに向けた高規格道路へのアクセス強化に取り組んでいく必要があります。
- ・ 利用状況やニーズに即した移動手段・公共交通の担い手の確保や、公共交通の利用促進を図る必要があります。
- ・ 利用者の利便性、快適性を向上していくため、幹線・広域・生活圏交通の交通モード間の接続性を向上していく必要があります。
- ・ 北海道新幹線の札幌延伸等を見据え、札幌駅周辺と中核都市間等を結ぶネットワーク強化を図る必要があります。

Ⅲ. 地域重点プロジェクト (空知地域)

夕張市、岩見沢市、美唄市、芦別市、赤平市、三笠市、滝川市、砂川市、歌志内市、深川市、南幌町、奈井江町、上砂川町、由仁町、長沼町、栗山町、月形町、浦臼町、新十津川町、妹背牛町、秩父別町、雨竜町、北竜町、沼田町、札幌開発建設部、空知総合振興局

【概要】空知地域「地域づくり推進ビジョン」

札幌開発建設部

空知総合振興局

夕張市、岩見沢市、美唄市、芦別市、赤平市、三笠市、滝川市、砂川市、歌志内市、深川市、南幌町、奈井江町、上砂川町、由仁町、長沼町、栗山町、月形町、浦臼町、新十津川町、妹背牛町、秩父別町、雨竜町、北竜町、沼田町

I. 地域のめざす姿

- 高い食料供給力、魅力的な観光資源、豊富な再生可能エネルギーといった道央圏が持つ資源等を最大限に活かすべく、北海道型地域構造の保持形成による域内経済圏の発展をめざす。
- 高い価値を持つ文化・歴史を受け継ぎながら、デジタル関連産業の集積など本道をリードする中核エリアとして、次の世代を見据えた持続可能な発展をめざす「道央広域連携地域」

※地域づくり推進ビジョン

国の「第9期北海道総合開発計画」と北海道の「北海道総合計画」に基づく施策の展開を図るため、管内自治体等と地域づくりの方向を共有の上、「計画の地域版」として取りまとめた今後10年のビジョンです。

II. 地域のめざす姿に向けた施策の方向

- ① 誰もが健康で安心して暮らせるまちづくりの推進
- ② 「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた、豊かな自然環境と調和する地域社会の構築
- ③ 地域の特徴を活かした多種多様な農林水産業の展開
- ④ 半導体・デジタル関連産業の集積をはじめ、本道経済をリードする産業の活性化
- ⑤ アドベンチャートラベルの推進など、多彩な地域資源を活用した観光の振興
- ⑥ 地域固有の文化や歴史の継承・活用
- ⑦ 交流を支える基盤整備の促進

ビジョンの進め方（横串）

○実効性を高めるため

官民の垣根を越えた「共創」
社会変革の鍵となるDX・GXの推進
フロンティア精神の再発揮
戦略的・計画的な社会資本整備

III. 地域重点プロジェクト

① 地域の強みを活かした産業を育成し、本道の経済をリード

- 交通・物流ネットワークの充実による産業競争力の強化
- 地域の特性を活かした企業や研究機関等の誘致に向けた取組の促進

【一次産業の未来を広げる産業振興プロジェクト】等

② 地域の資源・特性を活かし、我が国の食料安全保障を支え、脱炭素化を先導

- 風力、太陽光、地熱、バイオマス等の地域特性を活かした再生可能エネルギー導入・活用
- 農産物ブランド化の推進、農産物をベースにした加工品づくりと付加価値向上及び国内外への販路開拓の促進【一次産業の未来を広げる産業振興プロジェクト】等

③ 北海道の自然環境・文化の継承と、地域資源を活かした観光地域づくり

- 「かわたびほっかいどう」等の生産空間の魅力的な公共空間を活用した観光コンテンツ創出
- 地域のプレイヤーを育成し、活躍の場、雇用の創出

【日本遺産「炭鉄港」を活用した交流人口拡大プロジェクト】等

④ 生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり

- 気候変動を踏まえた治水計画の見直し
- 安心で住み良いまちづくり【「空知」に関わりを持つ人材創出プロジェクト】等

プロジェクトを支えるインフラ整備

- 石狩川流域の河川整備推進（石狩川、空知川、夕張川等）
- 道央圏連絡道路の整備推進（中樹林道路、長沼南幌道路）
- 新千歳空港の整備推進
- 国営かんがい排水事業の整備推進（北海地区、江別南幌地区、幌向川二期地区、神竜二期地区）等
- 安心して快適な旅ができる交通ネットワークの整備
・ 観光拠点へのアクセス道路の整備推進
- 農産物の安定生産の基盤となる農地や農業用施設の整備

官民共創の取組

- ・ 「道の駅」等の既存ストックの活用
- ・ スマート農業の実装加速化に向けた事業の推進
- ・ 流域治水プロジェクト2.0の推進
- ・ 「かわたびほっかいどう」の推進
- ・ 「シーニックバイウエイ北海道」の推進
- ・ 「わが村は美しく北海道」運動の推進
- ・ 日本遺産「炭鉄港」を活用した観光等の推進 等

【プロジェクト1】

地域の強みを活かした産業を育成し、本道の経済をリード

空港・港湾などの物流拠点や大学・企業等の研究・開発機能が集中する立地環境の優位性を活かした半導体などデジタル関連をはじめとする産業集積の促進及び産学官金連携の推進により、本道経済をリードする産業の活性化と雇用の場の創出や産業人材の確保・定着に取り組みます。

* 地域の目指す姿に向けた施策の方向 ④ 半導体・デジタル関連産業の集積をはじめ、本道経済をリードする産業の活性化 ⑦ 交流を支える基盤整備の促進

■主な取組

- 企業進出、技術力向上の取組、DX・GX対応等への支援によるものづくり産業の振興
- 交通・物流ネットワークの充実による産業競争力の強化
- ミッシングリンクの早期解消等のいまだ接続されていない都市間や地方部を接続する高規格道路、港湾・空港施設、北海道新幹線の交通ネットワーク整備
- 輸送モード間を含む交通結節機能強化、都市間の連絡及び生産空間から都市に至る複数の輸送手段・ルートの確保等による持続可能な交通体系の構築
- 農水産物等の輸送を支える高規格道路の整備
- 高規格道路から空港・港湾・鉄道駅等の物流拠点へのアクセスルート確保
- 災害時に備えた複数のルート確保等による強靱な輸送体系の構築

- 地域の特性を活かした企業や研究機関等の誘致に向けた取組の促進

【一次産業の未来を広げる産業振興プロジェクト】

- 新規高卒者の地元就職の促進など雇用対策
- 「空知を育てる」次世代リーダーの育成

【「空知」に関わりを持つ人材創出プロジェクト】

【プロジェクト2】

地域の資源・特性を活かし、我が国の食料安全保障を支え、脱炭素化を先導

デジタル技術の活用やブランド化の推進により、地域の特色を活かした多種多様な農林水産業の持続的発展を図るとともに、豊かな自然・資源を活用し、脱炭素化や経済の活性化の両立を図り、持続可能な地域づくりを推進します。

* 地域の目指す姿に向けた施策の方向 ② 「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた、豊かな自然環境と調和する地域社会の構築 ③ 地域の特色を活かした多種多様な農林水産業の展開

■主な取組

- 風力、太陽光、地熱、バイオマス等の地域特性を活かした再生可能エネルギー導入・活用
- 公共セクターにおける小水力発電等の再生可能エネルギー導入
- 急速EV充電施設の設置によるEVの普及促進
- 交通・物流円滑化等の環境負荷軽減に資するインフラ整備、空港・道路等における設備の省エネルギー化の推進
- 公共事業等におけるブルーカーボン生態系創出
- 地域特性に応じた高効率・高品質生産を可能とする農業生産基盤及びデジタル基盤の整備
- グリーン化・デジタル化による農業水利施設の整備及び戦略的保全管理
- 耐震・排水対策等の災害に強い農業生産基盤整備
- 担い手への農地集積・集約化の加速化と優良農地の確保
- 激甚化・頻発化する水災害に対応した生産基盤整備・治山対策

- 空知農業の持続的な発展に向けた「土づくり」と「人づくり」
- 農産物ブランド化の推進、農産物をベースにした加工品づくりと付加価値向上及び国内外への販路開拓の促進

【一次産業の未来を広げる産業振興プロジェクト】

【プロジェクト3】

北海道の自然環境・文化の継承と、地域資源を活かした観光地域づくり

新幹線札幌開業も見据えながら、全国的に有名な温泉地、アイヌ文化、ジオパーク、産業遺産、縄文世界遺産、国立・国定公園など多彩な地域資源を活用した観光振興や文化・歴史の継承・活用を図ります。

* 地域の目指す姿に向けた施策の方向

- ② 「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた、豊かな自然環境と調和する地域社会の構築
- ⑤ アドベンチャートラベルの推進など、多彩な地域資源を活用した観光の振興
- ⑥ 地域固有の文化や歴史の継承・活用
- ⑦ 交流を支える基盤整備の促進

■ 主な取組

- 「かわたびほっかいどう」等の生産空間の魅力的な公共空間を活用した観光コンテンツ創出
 - 食・文化やインフラツーリズム等による通年型観光コンテンツ創出
 - アドベンチャートラベル等による長期滞在旅行者の誘客
 - 空港・港湾の受入機能強化、高規格道路の整備、北海道新幹線の整備、交通結節機能強化等とともに運輸事業者や観光事業者が一体となった移動の利便性向上
 - 「シーニックバイウェイ『秀逸な道』」や「みなとオアシス」等の自然環境・文化や景観と観光が両立した地域との協働による観光地域づくり
 - 北の縄文遺跡を始めとする道内各地の遺跡やジオパーク、炭鉄港等の日本遺産、北海道の馬文化等の北海道遺産等を活用した観光地域づくり
 - 道路、河川及び港湾空間等のオープンスペースや「道の駅」等の既存ストックを活用した賑わいの場の創出
 - プレミアム旅行商品の造成など具体に移ぐ仕組み作り
 - 地域のプレイヤーを育成し、活躍の場、雇用の創出
- 【日本遺産「炭鉄港」を活用した交流人口拡大プロジェクト】
- 各地域におけるジオパークを活かした特色ある取組の促進
 - 各ジオパーク（構想）推進協議会・関係団体のネットワークを活用した更なる魅力の向上、関係人口の創出・拡大
- 【ジオパークの連携による関係人口等の創出・拡大プロジェクト】
- 道内外へのPR活動や情報発信
 - 豊かな地域資源や地域に根ざした食の魅力を活かした観光の振興
- 【「空知」の魅力発信・誘客促進プロジェクト】

【プロジェクト4】

生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり

防災・減災、国土強靱化に資するインフラ整備、持続的な地域交通・物流の維持確保、地域医療の充実や子ども応援社会の推進など、安全・安心で住みよいまちづくりを進めます。

* 地域の目指す姿に向けた施策の方向 ① 誰もが健康で安心して暮らせるまちづくりの推進 ⑦ 交流を支える基盤整備の促進

■ 主な取組

- 気候変動を踏まえた治水計画の見直し
 - 河川における堤防、遊水地、ダム等の整備
 - 地震、津波、火山噴火等の大規模災害に備えた各種インフラ施設等の整備及び耐災害性強化
 - 道路・港湾等の広域ネットワークの強靱化
 - TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）等による技術的な支援
 - 計画的・予防的な通行規制及び集中除雪、関係機関が連携した情報発信等の強化
 - 食料生産基盤・サプライチェーンの強靱化に向けたインフラ施設の耐災害性強化等
 - 安心で住み良いまちづくり
- 【「空知」に関わりを持つ人材創出プロジェクト】

■プロジェクトを支えるインフラ整備（空知地域）

■札幌開発建設部

<治水>

- 石狩川流域の河川整備推進
（石狩川、空知川、夕張川等）
- 幾春別川総合開発事業の整備推進
- 北村遊水地事業の推進
- 雨竜川ダム再生事業の推進
- ダムの維持管理（施設点検・補修、設備更新等）
- 石狩川下流自然再生事業の推進
（夕張川）
- 太陽光発電設備の設置
（南富良野町：幾寅地区MIZBEステーション）
- かわまちづくりの推進
（南富良野町）

等

<道路>

- 道央圏連絡道路の整備推進
（中樹林道路、長沼南幌道路）
- 一般国道12号峰延道路の整備推進
- 一般国道452号盤の沢道路の整備推進
- 交通安全対策事業の推進
（交差点改良、車線整備）
- 道路照明灯のLED化推進

等

<空港>

- 新千歳空港の整備推進
 - ・ 誘導路複線化
 - ・ 滑走路端安全区域（RESA）整備
 - ・ 滑走路・誘導路等の耐震対策
 - ・ 航空灯火のLED化推進

等

<農業>

- 国営かんがい排水事業の整備推進
（北海地区、江別南幌地区、幌向川二期地区、神竜二期地区）
- 国営施設応急対策事業の整備推進
（新雨竜二期地区、お茶の水地区）
- 国営農地再編整備事業の整備推進
（南長沼地区、美唄茶志内地区）
- 国営緊急農地再編整備事業の整備推進
（美唄地区、雨竜暑寒地区、岩見沢北村地区、岩見沢大願地区）
- 国営総合農地防災事業の整備推進
（雨竜川下流地区）
- 国営造成施設管理事業の推進
（大夕張地区、篠津地区）
- デジタル技術を活用した農業水利施設の機能診断
（国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業）

等

■空知総合振興局

- 農産物の安定生産の基盤となる農地や農業用施設の整備
 - ・ 農業用排水施設の整備推進
 - ・ 区画整理や暗渠排水、客土等の農用地の整備推進
- 農地及び農業用施設の機能回復や災害を回避するための施設の整備
 - ・ 農地や農業用施設の機能回復の整備推進
 - ・ 農業用ため池の地震対策整備及び耐震診断の支援
- 農産物流通の合理化などのための農道の整備
- 高規格道路の整備
- 物流ネットワーク形成のための道路網の整備
 - ・ 高規格道路と一体となった道路網の整備推進
 - ・ 空港、港湾などの物流拠点へのアクセス道路の整備推進
- 安心して快適な旅ができる交通ネットワークの整備
 - ・ 観光拠点へのアクセス道路の整備推進
 - ・ 統一的なイメージ形成に資する案内標識などの情報基盤の整備推進
 - ・ 自転車道や案内標識の整備推進
 - ・ Wi-Fiスポットの整備促進
- 災害に備えた安全な道路交通環境の整備
 - ・ 緊急輸送道路等の整備推進

等

Ⅲ. 地域重点プロジェクト (石狩地域)

札幌市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、当別町、新篠津村、札幌開発建設部、石狩振興局

【概要】石狩地域「地域づくり推進ビジョン」

札幌開発建設部

石狩振興局

札幌市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、当別町、新篠津村

I. 地域のめざす姿

- 高い食料供給力、魅力的な観光資源、豊富な再生可能エネルギーといった道央圏が持つ資源等を最大限に活かすべく、北海道型地域構造の保持形成による域内経済圏の発展をめざす。
- 高い価値を持つ文化・歴史を受け継ぎながら、デジタル関連産業の集積など本道をリードする中核エリアとして、次の世代を見据えた持続可能な発展をめざす「道央広域連携地域」

※地域づくり推進ビジョン

国の「第9期北海道総合開発計画」と北海道の「北海道総合計画」に基づく施策の展開を図るため、管内自治体等と地域づくりの方向を共有の上、「計画の地域版」として取りまとめた今後10年のビジョンです。

II. 地域のめざす姿に向けた施策の方向

- ① 誰もが健康で安心して暮らせるまちづくりの推進
- ② 「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた、豊かな自然環境と調和する地域社会の構築
- ③ 地域の特色を活かした多種多様な農林水産業の展開
- ④ 半導体・デジタル関連産業の集積をはじめ、本道経済をリードする産業の活性化
- ⑤ アドベンチャータビルの推進など、多彩な地域資源を活用した観光の振興
- ⑥ 地域固有の文化や歴史の継承・活用
- ⑦ 交流を支える基盤整備の促進

ビジョンの進め方（横串）

○実効性を高めるため

官民の垣根を越えた「共創」
社会変革の鍵となる **DX・GX** の推進
フロンティア精神 の再発揮
戦略的・計画的な **社会資本整備**

III. 地域重点プロジェクト

① 地域の強みを活かした産業を育成し、本道の経済をリード

- 次世代半導体の製造基盤確立、研究、人材育成等の拠点形成に向けた取組促進
- デジタル産業基盤であるデータセンターの立地促進、高速大容量の通信インフラの整備
- 地域産業の活性化や企業誘致等による雇用の場の創出

【若者の地元定着促進と道外からの人の呼び込みプロジェクト】 等

② 地域の資源・特性を活かし、我が国の食料安全保障を支え、脱炭素化を先導

- 風力、太陽光、地熱、バイオマス等の地域特性を活かした再生可能エネルギー導入・活用
- 地域特性に応じた高効率・高品質生産を可能とする農業生産基盤及びデジタル基盤の整備
- 豊かな自然環境を守り育てる取組の推進

【自然環境と調和したまちづくりプロジェクト】 等

③ 北海道の自然環境・文化の継承と、地域資源を活かした観光地域づくり

- 空港・港湾の受入機能強化、高規格道路の整備、北海道新幹線の整備、交通結節機能強化等とともに運輸事業者や観光事業者が一体となった移動の利便性向上
- 観光客の満足度を高める受入体制の整備に向けた取組の促進

【食と観光の魅力発信プロジェクト】 等

④ 生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり

- 気候変動を踏まえた治水計画の見直し
- 出産・子育てを地域で支える環境づくり

【安心して子どもを生み育てられる環境づくりプロジェクト】 等

プロジェクトを支えるインフラ整備

- 石狩川下流域の河川整備推進（石狩川、千歳川等）
- かわまちづくりの推進（江別市）
- 道央圏連絡道路の整備推進（中樹林道路、長沼南幌道路）
- 新千歳空港の整備推進
- 国営かんがい排水事業の整備推進（北海地区、江別南幌地区、篠津運河下流地区、篠津運河下流地区） 等
- 農産物の安定生産の基盤となる農地や農業用施設の整備
- 半導体関連産業集積地域の交通アクセスの向上
- 安全で快適な旅ができる交通ネットワークの整備
 - ・ 観光拠点へのアクセス道路の整備推進
 - ・ 高規格道路と札幌都市とのアクセス強化
- 食品輸出に係る石狩湾新港の機能強化 等

官民共創の取組

- ・ 「道の駅」等の既存ストックの活用
- ・ スマート農業の実装加速化に向けた事業の推進
- ・ 流域治水プロジェクト2. 0の推進
- ・ 「かわたびほっかいどう」の推進
- ・ 「シーニックバイウエイ北海道」の推進
- ・ 「わが村は美しく北海道」運動の推進
- ・ 日本遺産「炭鉄港」を活用した観光等の推進 等

【プロジェクト1】

地域の強みを活かした産業を育成し、本道の経済をリード

空港・港湾などの物流拠点や大学・企業等の研究・開発機能が集中する立地環境の優位性を活かした半導体などデジタル関連をはじめとする産業集積の促進及び産学官金連携の推進により、本道経済をリードする産業の活性化と雇用の場の創出や産業人材の確保・定着に取り組みます。

* 地域の目指す姿に向けた施策の方向 ④ 半導体・デジタル関連産業の集積をはじめ、本道経済をリードする産業の活性化 ⑦ 交流を支える基盤整備の促進

■主な取組

- 地域の強みを活かした再生可能エネルギー関連産業の立地促進・育成
- 次世代半導体の製造基盤確立、研究、人材育成等の拠点形成に向けた取組促進
- デジタル産業基盤であるデータセンターの立地促進、高速大容量の通信インフラの整備
- 農水産物等の輸送を支える高規格道路の整備
- 道内及び北海道と本州間におけるトラック・鉄道・航空・船舶等の特性に合わせ補完しあう多様な輸送体系の構築
- 新幹線駅に直結するバスターミナルや創成川通（都心アクセス道路）の整備等による広域的交通結節機能強化及び交通サービスの充実
- ゼロカーボンシティやスマートシティの実現に向けた取組、防災機能強化・強靱化、雪対策等を組み込んだ交通基盤・都市基盤の整備

- 若者の地元定着に向けた取組や道外からのU・I・Jターンの促進
- 地域産業の活性化や企業誘致等による雇用の場の創出

【若者の地元定着促進と道外からの人の呼び込みプロジェクト】

【プロジェクト2】

地域の資源・特性を活かし、我が国の食料安全保障を支え、脱炭素化を先導

デジタル技術の活用やブランド化の推進により、地域の特色を活かした多種多様な農林水産業の持続的発展を図るとともに、豊かな自然・資源を活用し、脱炭素化や経済の活性化の両立を図り、持続可能な地域づくりを推進します。

* 地域の目指す姿に向けた施策の方向 ② 「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた、豊かな自然環境と調和する地域社会の構築 ③ 地域の特色を活かした多種多様な農林水産業の展開

■主な取組

- 風力、太陽光、地熱、バイオマス等の地域特性を活かした再生可能エネルギー導入・活用
- 公共セクターにおける小水力発電等の再生可能エネルギー導入
- 急速EV充電施設の設置によるEVの普及促進
- 交通・物流円滑化等の環境負荷軽減に資するインフラ整備、空港・道路等における設備の省エネルギー化の推進
- 公共事業等におけるブルーカーボン生態系創出
- 地域特性に応じた高効率・高品質生産を可能とする農業生産基盤及びデジタル基盤の整備
- グリーン化・デジタル化による農業水利施設の整備及び戦略的保全管理
- 耐震・排水対策等の災害に強い農業生産基盤整備
- 輸出産地の育成・展開に必要な施設整備

- 地域産業の活性化や企業誘致等による雇用の場の創出 【再掲】

【若者の地元定着促進と道外からの人の呼び込みプロジェクト】

- 豊かな自然環境を守り育てる取組の推進

【自然環境と調和したまちづくりプロジェクト】

【プロジェクト3】

北海道の自然環境・文化の継承と、地域資源を活かした観光地域づくり

新幹線札幌開業も見据えながら、全国的に有名な温泉地、アイヌ文化、ジオパーク、産業遺産、縄文世界遺産、国立・国定公園など多彩な地域資源を活用した観光振興や文化・歴史の継承・活用を図ります。

* 地域の目指す姿に向けた施策の方向

- ② 「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた、豊かな自然環境と調和する地域社会の構築
- ⑤ アドベンチャートラベルの推進など、多彩な地域資源を活用した観光の振興
- ⑥ 地域固有の文化や歴史の継承・活用
- ⑦ 交流を支える基盤整備の促進

■主な取組

- 「かわたぴほっかいどう」等の生産空間の魅力的な公共空間を活用した観光コンテンツ創出
 - 食・文化やインフラツーリズム等による通年型観光コンテンツ創出
 - アドベンチャートラベル等による長期滞在旅行者の誘客
 - 空港・港湾の受入機能強化、高規格道路の整備、北海道新幹線の整備、交通結節機能強化等とともに運輸事業者や観光事業者が一体となった移動の利便性向上
 - 「シーニックバイウェイ『秀逸な道』」や「みなとオアシス」等の自然環境・文化や景観と観光が両立した地域との協働による観光地域づくり
 - 北の縄文遺跡を始めとする道内各地の遺跡やジオパーク、炭鉄港等の日本遺産、北海道の馬文化等の北海道遺産等を活用した観光地域づくり
 - 道路、河川及び港湾空間等のオープンスペースや「道の駅」等の既存ストックを活用した賑わいの場の創出
 - プレミアム旅行商品の造成など具体的に稼ぐ仕組み作り
 - 地域のプレイヤーを育成し、活躍の場、雇用の創出
- 【日本遺産「炭鉄港」を活用した交流人口拡大プロジェクト】
- 縄文文化の魅力発信と次世代への継承の推進
 - 縄文遺跡群をはじめとする地域資源を活用した誘客促進
- 【縄文遺跡群などを活用した魅力発信と誘客促進プロジェクト】
- 石狩ならではの観光推進に向けたプロモーションの展開
 - 観光客の満足度を高める受入体制の整備に向けた取組の促進
 - 多様なニーズに対応した観光メニューの提供や地域の食の魅力向上・活性化に向けた取組の促進と魅力発信
- 【食と観光の魅力発信プロジェクト】

【プロジェクト4】

生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり

防災・減災、国土強靱化に資するインフラ整備、持続的な地域交通・物流の維持確保、地域医療の充実や子ども応援社会の推進など、安全・安心で住みよいまちづくりを進めます。

* 地域の目指す姿に向けた施策の方向 ① 誰もが健康で安心して暮らせるまちづくりの推進 ⑦ 交流を支える基盤整備の促進

■主な取組

- 高規格道路から空港・港湾・鉄道駅等の物流拠点へのアクセスルート確保
 - 気候変動を踏まえた治水計画の見直し
 - 河川における堤防、遊水地、ダム等の整備
 - 地震、津波、火山噴火等の大規模災害に備えた各種インフラ施設等の整備及び耐災害性強化
 - 道路・港湾等の広域ネットワークの強靱化
 - 道路、港湾・漁港、航路、空港等が連携した啓開
 - TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）等による技術的な支援
 - 計画的・予防的な通行規制及び集中除雪、関係機関が連携した情報発信等の強化
 - 幹線道路や生活道路の持続可能な除排雪等の推進
 - 出産・子育てを地域で支える環境づくり
 - 働き方改革やワーク・ライフ・バランス実現に向けた企業の意識醸成
- 【安心して子どもを生み育てられる環境づくりプロジェクト】
- 誰もが安心して暮らせる社会の形成
- 【自然環境と調和したまちづくりプロジェクト】

■プロジェクトを支えるインフラ整備（石狩地域）

■札幌開発建設部

<治水>

- 石狩川下流域の河川整備推進（石狩川、千歳川等）
- 北村遊水地事業の推進
- 豊平川直轄砂防事業の整備推進
- 豊平峡ダムの堰堤改良（耐震性能補強）
- ダムの維持管理（施設点検・補修、設備更新等）
- 石狩川下流自然再生事業の推進（タ張川）
- かわまちづくりの推進（江別市）

等

<道路>

- 道央圏連絡道路の整備推進（中樹林道路、長沼南幌道路）
- 一般国道5号創成川通の整備推進
- 一般国道5号札幌駅交通ターミナルの整備推進
- 交通安全対策事業の推進（交差点改良、路肩改良、無電柱化）
- 道路照明灯のLED化推進

等

<空港>

- 新千歳空港の整備推進
 - ・ 誘導路複線化
 - ・ 滑走路端安全区域（RESA）整備
 - ・ 滑走路・誘導路等の耐震対策
 - ・ 航空灯火のLED化推進

等

<公園>

- 滝野すずらん丘陵公園の運営維持管理

等

<農業>

- 国営かんがい排水事業の整備推進
（北海地区、江別南幌地区、篠津運河中流地区、篠津運河下流地区）
- 国営施設応急対策事業の整備推進
（篠津青山地区、お茶の水地区）
- 国営造成施設管理事業の推進
（大タ張地区、篠津地区）
- デジタル技術を活用した農業水利施設の機能診断
（国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業）

等

■石狩振興局

- 農産物の安定生産の基盤となる農地や農業用施設の整備
 - ・ 優良農地の維持や農業生産性の向上を図るための農地整備の推進
- 健全な森林の整備と保全の推進
 - ・ 森林の有する多面的機能を高度に発揮させるための森林整備
- 水産物供給基地としての漁港・漁場づくり
 - ・ 漁業生産活動や水産物流通の拠点となる漁港・漁場の整備促進
- 半導体関連産業集積地域の交通アクセスの向上
 - ・ 半導体関連産業集積地域の利便性向上を図るための道路整備
- リサイクル・廃棄物処理施設の整備
 - ・ 産業廃棄物を処理・資源化する施設の整備
 - ・ 一般廃棄物を処理・資源化する施設の整備
- 自然豊かな水辺環境の整備・保全
 - ・ 河川環境の再生に配慮した河川・砂防施設の整備
- 国内海上交通ネットワークの整備
 - ・ 災害に強い海上輸送ネットワークの構築を図るための港湾機能の強化
- 災害に備えた安全な道路交通環境の整備
 - ・ 災害に強い交通ネットワークの整備促進
- 洪水や土砂災害、火山噴火や大規模地震、津波などに備えた安全性の高い災害防止施設の整備
 - ・ 河川や砂防などの治水施設の整備促進
- 安心して快適な旅ができる交通ネットワークの整備
 - ・ 観光拠点へのアクセス道路の整備推進
 - ・ 統一的なイメージ形成に資する案内標識などの情報基盤の整備推進
 - ・ 新千歳空港及び丘珠空港の機能強化、施設整備促進
 - ・ 高規格道路の整備促進
 - ・ 大規模自動車道の整備促進
 - ・ 高規格道路と札幌都心とのアクセス強化
- 北海道新幹線の整備促進
 - ・ 札幌までの整備促進
- 食品輸出に係る石狩湾新港の機能強化
 - ・ 国際海上貨物の拡大に向けた石狩湾新港の機能強化
 - ・ 石狩湾新港へのアクセス機能の整備促進
- こどもを安心して育てられる環境づくり
 - ・ 保健所などの老朽施設の更新や暑さ対策など新たなニーズに対応できる施設の整備
 - ・ 子育て支援住宅の整備促進
 - ・ 小児医療の提供体制の整備

Ⅲ. 地域重点プロジェクト (後志地域)

小樽市、島牧村、寿都町、黒松内町、蘭越町、ニセコ町、真狩村、留寿都村、喜茂別町、京極町、倶知安町、共和町、岩内町、泊村、神恵内村、積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村、小樽開発建設部、後志総合振興局

本推進ビジョンは、政策展開方針の地域重点政策ユニットで掲げる後志地域の3つのプロジェクトを地域重点プロジェクトとします。

後志総合振興局、小樽開発建設部一緒のプロジェクトとし、地域づくり連携会議構成員等が一丸となって推進します。

- ①農林水産業の持続的発展・ブランド化推進プロジェクト
- ②地域資源を活用した持続可能な観光地域づくりプロジェクト
- ③多様性を尊重し誰もが安全安心に暮らせる地域づくりプロジェクト
- ①～③の付図として「インフラ整備進捗図」

農林水産業の持続的発展・ブランド化推進プロジェクト

担い手の確保や収益性の向上に向けた取組を推進し、農林水産業の持続的発展を図るとともに、ワインをはじめ豊富で良質な1次産品を活用した商品開発や情報発信などにより、農林水産物の高付加価値化やブランド化を促進します。

地域のめざす姿の実現に向けた施策の方向

- ② 「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた、豊かな自然環境と調和する地域社会の構築
- ③ 地域の特色を活かした多種多様な農林水産業の展開
- ④ 半導体・デジタル関連産業の集積をはじめ、本道経済をリードする産業の活性化

重点的に取り組む施策

■ 高品質で収益性の高い農産物の栽培及びICTを活用した省力化技術の普及

- さつまいもなどの高収益作物の導入推進
- ICTを活用した省力化技術の普及
- 鳥獣被害防止対策の推進

■ 道内一の収穫量を誇る醸造用ぶどうを活かしたワイナリーの集積とワイン製造におけるカーボンニュートラルの取組の普及促進

- 栽培・製造・マーケティング等の技術の向上
- ワイン製造におけるカーボンニュートラルに係る取組内容の調査・研究及び各ワイナリーへの普及促進

■ 水産資源の持続的利用や新たな増養殖の推進

- トラウトサーモンなど新たな養殖の推進
- 漁港施設の有効活用等による海業、マリンビジョンの取組の推進
- 水産物のブランド化など付加価値向上に向けた取組の推進
- コウナゴなど適切な資源管理の推進
- トドなどの海獣による漁業被害防止対策の推進
- 藻場保全などブルーカーボンに関する取組の推進
- 関係機関と連携した密漁防止対策の推進

■ 林業・木材産業（全道屈指の強度を持つ「ようていカラマツ」等）の振興

- 地域の特性に応じた森林づくりの推進
- 地材地消の推進
- 「ようていカラマツ」としてのブランド化の推進
- 鳥獣被害防止対策の推進

■ 多様な農林水産業の担い手の育成・確保

- 担い手の育成・確保

■ 多彩な一次産品や特産品の地元利用と道内外への販路拡大

- 特産品の発掘・磨き上げ
- 安全・安心を基礎とした「食」のブランド力の向上
- 「ようていカラマツ」としてのブランド化の推進
- 地元食材のレストランでの利用促進など産消協働の推進
- 官民協働による国内外でのプロモーションの展開

■ 農林水産活動団体の支援（わが村は美しく－北海道との連携）

地域資源を活用した持続可能な観光地域づくりプロジェクト

自然景観や地域の文化の組み合わせによるアドベンチャートラベルや、ワインをはじめとする多様な食資源を活かしたツーリズムの推進など、地域ならではの優れた地域資源を十分活用し、旅行者の滞在期間の延長や観光の通年化、広域化を図り、持続可能な観光地域づくりを推進します。

地域のめざす姿の実現に向けた施策の方向

- ⑤ アドベンチャートラベルの推進など、多彩な地域資源を活用した観光の振興
- ⑥ 地域固有の文化や歴史の継承・活用
- ⑦ 交流を支える基盤整備の促進

重点的に取り組む施策

■ 後志地域の自然景観や食資源を活用した広域観光の推進

- 農業・漁業体験など一次産業や食品加工業を始めとする二次産業と観光事業者との連携による「食」を活かした魅力ある観光地づくり
- 自然景観や食などの地域資源を活用した広域観光の推進

■ 地域の稼ぐ力を引き出す管内のDMOとの連携

- 北後志地域やニセコ地域を核とした周辺地域への広域化や観光消費の拡大
- DMOとの連携によるプロモーションや情報発信

■ ウィンタースポーツをはじめ、サイクルツーリズム、ラフティングなどのアクティビティや地域の文化等の組み合わせによるアドベンチャートラベルの推進

- インバウンド受入体制の充実
- 官民協働による国内外でのプロモーション展開
- 自然・景観の保全と活用による質の高いコンテンツの提供

■ 新たな交通ネットワークを広域的に活用するための連携した取組の推進

- 宿泊地（ハブ）と周辺の地域（サテライト）が連携し、多彩な魅力ある観光資源を活用した通年型・滞在型観光の推進
- シーニックバイウェイ北海道の推進
- 地域交通ネットワークの充実・確保
- 広域観光の推進
- インバウンド受入体制の充実
- 自然・景観の保全と活用による質の高いコンテンツの提供

■ 地域の観光ビジネスで活躍できる国際感覚やコミュニケーション能力を備えた人材の育成

- インバウンド受入体制の充実
- 商品造成や観光誘客プロモーションができる人材の育成

■ みなとオアシスの取組推進

多様性を尊重し誰もが安全安心に暮らせる地域づくりプロジェクト

労働者の通年雇用化や若年者への地元企業の魅力発信等による人材の流出抑制、移住・定住施策と一体となった人材誘致、グローバル人材の育成や多文化共生の推進、地域公共交通の利用促進や運転手確保などによる地域交通・物流ネットワークの確保、地域特性を踏まえた防災対策及び医療・福祉施策、再生エネルギーの活用や森林づくり、地域住民等のカーボンニュートラルに対する更なる意識醸成などを通じた環境と調和した地域づくり及び生産空間に住み続けられる環境づくりを推進します。

地域のめざす姿の実現に向けた施策の方向

- ① 誰もが健康で安心して暮らせるまちづくりの推進
- ② 「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた、豊かな自然環境と調和する地域社会の構築
- ⑦ 交流を支える基盤整備の促進

重点的に取り組む施策

■ 冬季に偏在する労働者の**通年雇用化**、学生と地元企業のマッチング支援や学生に対する情報提供を通じた**地元定着の促進**

- 無料職業紹介所の開設による就業相談の実施
- 若年者に向けた地元企業説明会等の開催

■ 国際感覚やコミュニケーション能力を備えた**グローバル人材の育成**、**多文化共生の推進**

- 多文化共生に向けた多様な主体の交流機会や外国語実践機会等の創出
- ShiriBeshi留学などを通じたグローバル人材の育成
- 市町村と連携した多文化共生の場の提供

■ 安全かつ安心に暮らせる**医療・福祉体制の整備**

- 地域に必要な医療提供体制確保の推進
- 安心して子どもを産み育てることができる環境づくり
- 高齢者がいつまでも健康で暮らすための環境づくり
- 障がいのある人が暮らしやすい地域づくり

■ 市町村と連携し、移住定住施策と一体となった**人材誘致**

- 移住フェアなど後志をPRする場へのブースの出展等
- SNS等による情報発信

■ 地域公共交通ネットワークの**維持支援**

- 市町村や事業者と連携したバスの運転手確保の取組の実施
- 公共交通利用促進のための広報活動

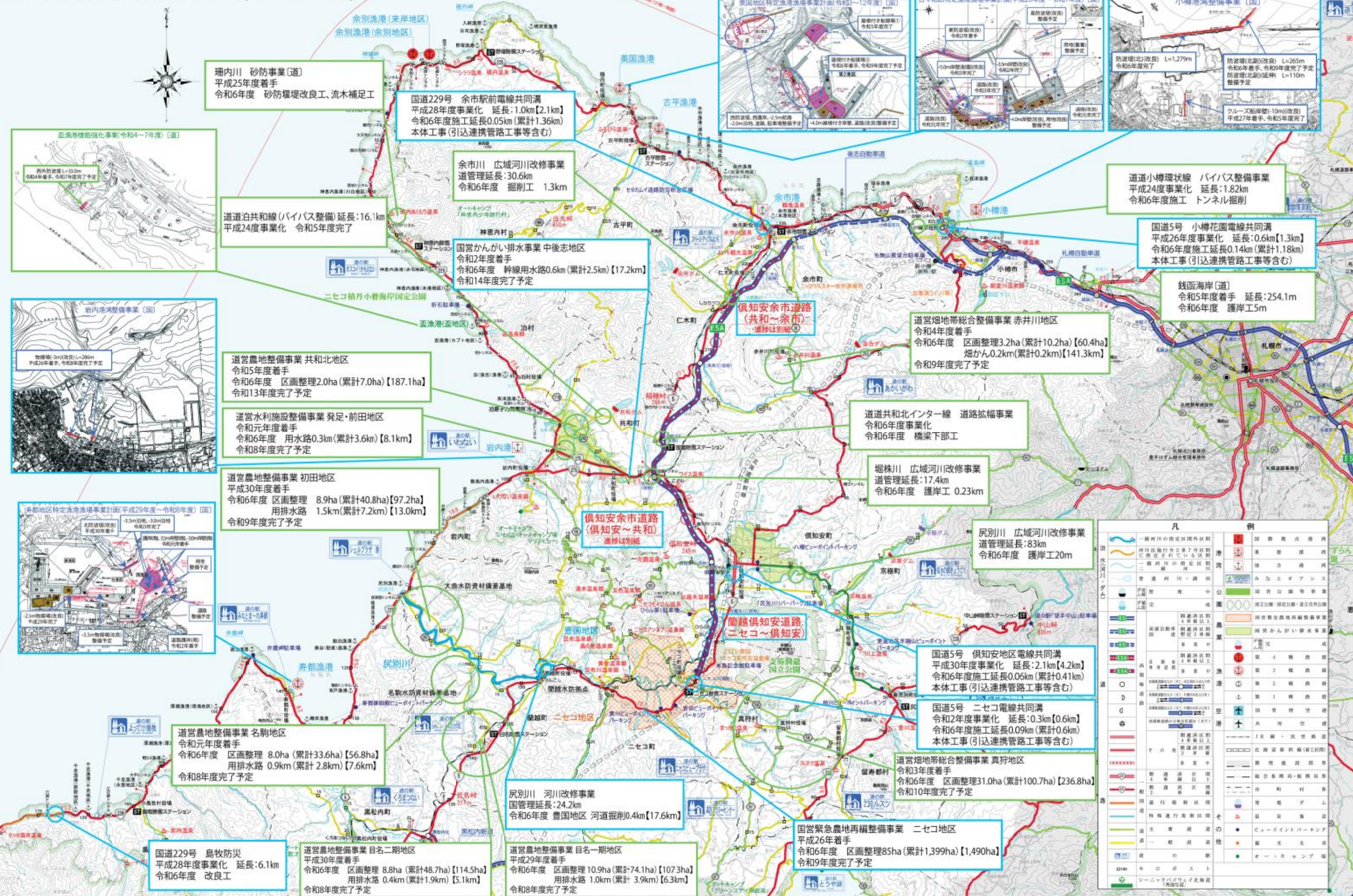
■ 地域の特性を踏まえた**防災対策の推進**

- 関係機関の連携による防災体制の強化
- 地域住民等を対象とした原子力防災に係る地域学習会の開催

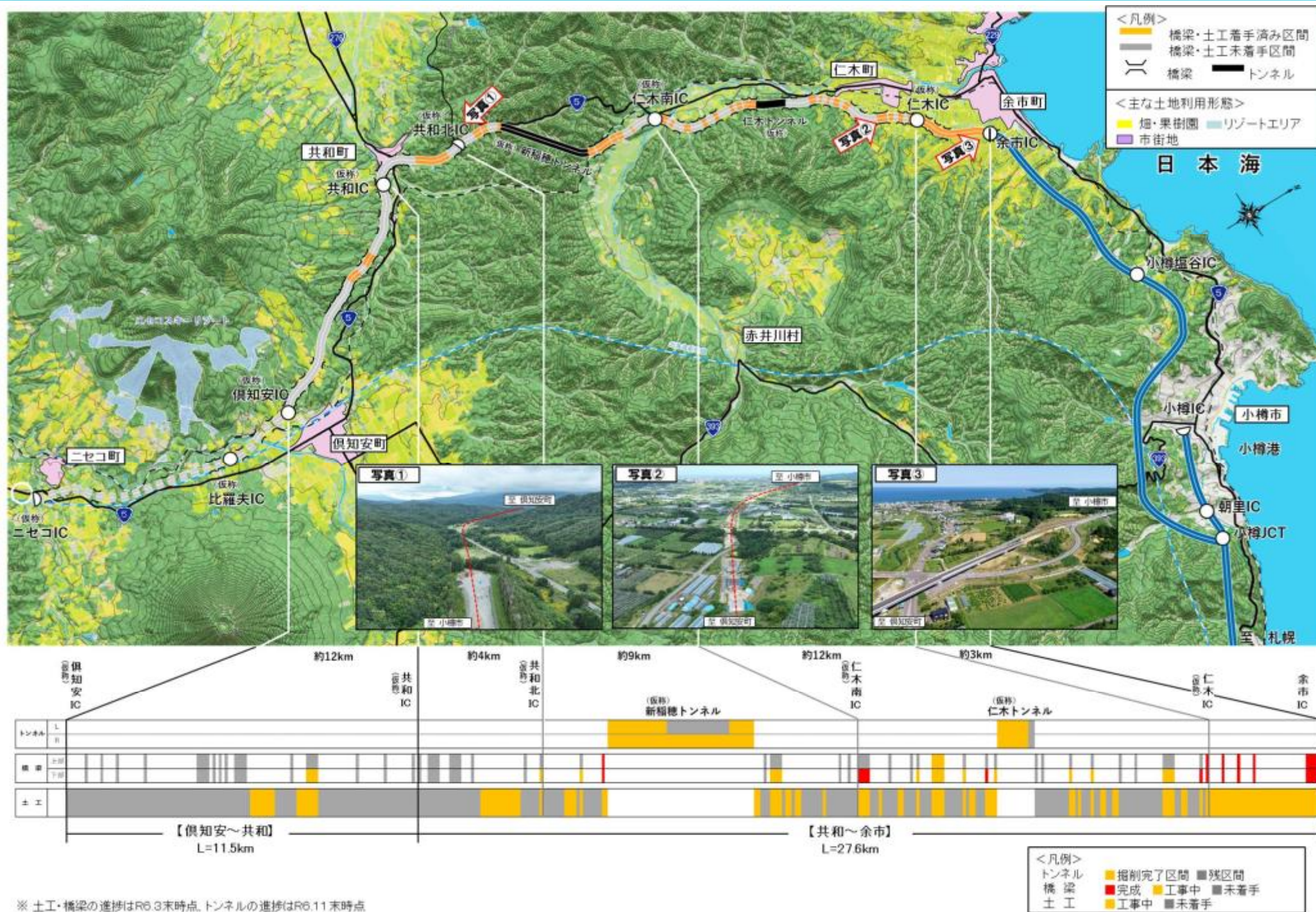
■ 地域住民等の**カーボンニュートラルに対する意識醸成**

- 地域住民等を対象とした出前講座などの啓発活動の実施

測量法に基づく国土地理院長承認(使用)RSJNs 207-GISMAP57566号



【付図 (別紙)】インフラ整備進捗図 (令和 6年度)



Ⅲ. 地域重点プロジェクト (胆振・日高地域)

室蘭市、苫小牧市、登別市、伊達市、豊浦町、壮瞥町、白老町、厚真町、洞爺湖町、安平町、むかわ町、日高町、平取町、新冠町、浦河町、様似町、えりも町、新ひだか町、室蘭開発建設部、胆振総合振興局、日高振興局

道央広域連携地域（胆振・日高）「地域づくり推進ビジョン」

様式3-1

III 地域重点プロジェクト

各プロジェクトの概要

推進主体：国、道（胆振、日高）

項目	暮らし安心	環境・人と自然の共生	地域を支える農林水産業	地域を支える産業	交流	文化・歴史	基盤づくり
地域のめざす姿	① 誰もが健康で安心して暮らせるまちづくりの推進	② 「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた、豊かな自然環境と調和する地域社会の構築	③ 地域の特色を活かした多種多様な農林水産業の展開	④ 半導体・デジタル関連産業の集積をはじめ、本道経済をリードする産業の活性化	⑤ アドベンチャートラベルの推進など、多彩な地域資源を活用した観光の振興	⑥ 地域固有の文化や歴史の継承・活用	⑦ 交流を支える基盤整備の促進
プロジェクトの概要	1－（１） 安全安心の強靱な国土づくり	2－（１） 脱炭素化と食料安全保障を支える地域の強みを活かした産業の展開	3－（１） 脱炭素化と食料安全保障を支える地域の強みを活かした産業の展開 【再掲】2－（１）	4－（１） 脱炭素化と食料安全保障を支える地域の強みを活かした産業の展開 【再掲】2－（１）	5－（１） 地域固有の文化・景観、自然環境と調和した観「公」と地域づくり	6－（１） 地域固有の文化・景観、自然環境と調和した観「公」と地域づくり 【再掲】5－（１）	7－（１） 安全安心の強靱な国土づくり 【再掲】1－（１）
	1－（２） 住みたい・訪れたい「いぶり」地域づくりプロジェクト	2－（２） 脱炭素社会を創造する「いぶり」産業展開プロジェクト	3－（２） 住みたい・訪れたい「いぶり」地域づくりプロジェクト 【再掲】1－（２）	4－（２） 脱炭素社会を創造する「いぶり」産業展開プロジェクト 【再掲】2－（２）	5－（２） ジオパークの連携による関係人口等の創出・拡大プロジェクト	6－（２） 日本遺産「炭鉄港」を活用した交流人口拡大プロジェクト	7－（２） 住みたい・訪れたい「いぶり」地域づくりプロジェクト 【再掲】1－（２）
	1－（３） 「ナナイロひだか」人材確保・育成プロジェクト	2－（３） 「ナナイロひだか」産業振興プロジェクト	3－（３） 「ナナイロひだか」産業振興プロジェクト 【再掲】2－（３）		5－（３） 住みたい・訪れたい「いぶり」地域づくりプロジェクト 【再掲】1－（２）	6－（３） アイヌ文化等の地域資源を活かした日胆地域活性化プロジェクト	7－（３） 脱炭素社会を創造する「いぶり」産業展開プロジェクト 【再掲】2－（２）
					5－（４） 「ナナイロひだか」魅力向上・発信プロジェクト	6－（４） ジオパークの連携による関係人口等の創出・拡大プロジェクト 【再掲】5－（２）	
						6－（５） 縄文遺跡群などを活用した魅力発信と誘客促進プロジェクト	

Ⅲ 地域重点プロジェクト【主に国が実施する地域プロジェクト】

様式3-2

1－（１），7－（１） 安全安心の強靱な国土づくり 推進主体：国 推進エリア：道央広域連携地域（胆振・日高）			
1 暮らし安心／《地域のめざす姿》①誰もが健康で安心して暮らせるまちづくりの推進 7 基盤づくり／《地域の目指す姿》⑦交流を支える基盤整備の促進			
【プロジェクトの概要】 - 生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり - 北海道型地域構造を支え、世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成			
主な取組	実施主体	主な取組	実施主体
生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり (1)日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震等の大規模災害に対する生産・社会基盤の強靱化 - 地震、津波、火山噴火等の大規模災害に備えた各種インフラ施設等の整備及び耐災害性強化 - 道路・港湾の広域ネットワークの強靱化 - 津波避難対策特別強化地域に指定された地方公共団体による津波避難対策への支援 - 道路、港湾・漁港、航路、空港等が連携した啓開 - 関係機関が連携した防災教育、防災訓練等の防災対応力の充実・強化 - TEC-FORCE等による技術的な支援 (2)気候変動に伴い激甚化する水災害に対する北海道の地域特性を踏まえた流域治水の推進 - 気候変動を踏まえた治水計画の見直し - 河川における堤防、遊水池、ダム等の整備 - 海岸保全施設、港湾施設、砂防施設、治山施設、雨水貯留浸透施設等の整備 - 住まい方の工夫等を含む水害、土砂災害、高潮等に対するハード・ソフト一体となった事前防災対策 (3)冬期災害や複合災害に対する防災力の強化 - 計画的・予防的な通行規制及び集中除雪、関係機関が連携した情報発信等の強化 - 幹線道路や生活道路の持続可能な除排雪等の推進 - 災害時における代替性確保のための高規格道路整備や基幹的な道路ネットワークの強化 (4)デジタル技術を活用したインフラの維持管理及び技術開発の推進 - AI、IoT等の新技術の活用や広域的・戦略的なインフラマネジメントによる予防保全型のインフラメンテナンスへの本格転換、人材育成、担い手確保、技術支援 - i-Snow SMART-Grass等のインフラ分野のDX化による現場の生産性、安全性の向上 (5)災害時におけるライフラインの機能確保に向けた施設の耐災害性強化及び多重化・分散化 - ライフライン施設の耐災害性強化	国、道、市町 民間	官民共創の取組 ○自治体・関係機関と連携した防災訓練、防災啓発イベント、情報交換等の実施 推進体制：国、道、市町、民間 ○i-Snowの推進 取組内容：除雪現場の省力化による生産性・安全性の向上に関する取組 推進体制：国、市町、民間 ○地域公共交通の支援 取組内容：苫小牧市自動運転実証調査事業と連携した路車協調システムの実証実験 推進体制：国、市、民間	
北海道型地域構造を支え、世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成 (1)広域分散型社会を支える交通ネットワークの形成 - ミッシングリンクの早期解消等のいまだ接続されていない都市間や地方部を接続する高規格道路、港湾・空港施設、北海道新幹線の交通ネットワーク整備 - 高規格道路整備、地方部の交通結節点機能整備、地域の実情に合った交通や物流システムの導入・維持方策の一体的な推進 (2)産業を支える物流基盤の整備と物流システムの維持・効率化 - 災害時に備えた複数のルート確保等による強靱な輸送体系の構築 (3)安全・安心な移動環境の確保 - 輸送資源を最大限活用した持続可能な交通サービスの構築 - 積雪寒冷環境における自動運転技術の研究開発や自動運転に対応した道路空間の利活用等	国、道、市町 民間		

Ⅲ 地域重点プロジェクト【主に国が実施する地域プロジェクト】

1－（１），7－（１） 安全安心の強靱な国土づくり			
主な取組	実施主体	主な取組	実施主体
室蘭開発建設部の主な基盤整備等 R6実施中 <治水> ・鶴川直轄河川改修事業 ・沙流川直轄河川改修事業 ・鶴川・沙流川流域治水プロジェクトの推進【協働】 ・樽前山直轄火山砂防事業 ・胆振海岸直轄海岸保全施設整備事業 <道路> ・日高自動車道 厚賀静内道路 ・日高自動車道 静内三石道路（静内～東静内） ・一般国道274号 清瀬防災 ・一般国道453号 蟠溪道路 ・道路維持修繕事業 ・SNSを活用した通行規制等の情報発信 ・道路維持管理へのICT・AI技術の活用 ・i-Snowの推進【共創】 ・メンテナンスサイクルに基づく道路施設の定期点検の実施 ・道路施設の老朽化対策（橋梁、トンネル補修）、耐震化 ・自治体が管理する道路施設の直轄修繕代行（白老橋）の実施 ・交通安全対策の推進 ・道の駅防災資機材倉庫の整備（防災機能強化） ・道路の高架区間等を活用した津波や洪水からの浸水避難対策 ・電線共同溝事業の実施 ・協働型道路マネジメントの実施 ・地域公共交通の支援（苫小牧市自動運転実証調査事業と連携した路車協調システムの実証実験）【共創】 <港湾・漁港> ・室蘭港予防保全事業 ・苫小牧港予防保全事業 ・苫小牧港西港区商港地区複合一貫輸送ターミナル改良事業 ・苫小牧港東港区浜厚真地区複合一貫輸送ターミナル整備事業 ・えりも港予防保全事業 ・浦河港本港地区防波堤整備事業 ・白老港本港地区国内物流ターミナル整備事業 ・直轄特定漁港漁場整備事業（追直地区、登別地区、三石地区、様似地区、庶野地区） ・直轄特定漁港漁場整備事業（室蘭管内地区） ・道央圏港湾BCP、太平洋側港湾BCPの推進 ・水産庁版MAFF-SAT派遣による技術的な支援 <農業> ・国営かんがい排水事業（勇払東部（二期）地区、新鶴川地区、大原二期地区、美河地区） ・国営緊急農地再編整備事業（伊達地区） ・国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業 ・MAFF-SATによる技術的な支援		<防災> ・防災力向上に向けた各種取組の推進 ・TEC-FORCE、リエゾン派遣による被災した自治体等への迅速な技術支援及び積極的な情報提供 ・自治体・関係機関と連携した防災訓練、防災啓発イベント、情報交換等の実施【協働】 ・自治体への災害対策用機械、防災資機材の貸与【協働】 ・広域防災フロートの活用【協働】 ・当部公務員宿舎の津波避難ビルとしての使用協定【協働】	

Ⅲ 地域重点プロジェクト【主に国が実施する地域プロジェクト】

様式3-2

2－（１），３－（１），４－（１） 脱炭素化と食料安全保障を支える地域の強みを活かした産業の展開			
推進主体：国 推進エリア：道央広域連携地域（胆振・日高）			
2 環境・人と自然の共生／《地域のめざす姿》②「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた、豊かな自然環境と調和する地域社会の構築 3 地域を支える農林水産業／《地域のめざす姿》③地域の特色を活かした多種多様な農林水産業の展開 4 地域を支える産業／《地域のめざす姿》④半導体・デジタル関連産業の集積をはじめ、本道経済をリードする産業の活性化			
【プロジェクトの概要】 - 地球温暖化対策を先導するゼロカーボン北海道の実現 - 食料安全保障を支える農林水産業・食関連産業の持続的な発展 - 北海道型地域構造を支え、世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成 - 地域の強みを活かした成長産業の形成 - デジタルの活用による生産空間の維持・発展			
主な取組	実施主体	主な取組	実施主体
地球温暖化対策を先導するゼロカーボン北海道の実現 (1)北海道の地域特性を活かした持続可能な脱炭素社会の形成 ○再生可能エネルギーの導入拡大、送電系統の強化等 ・公共セクターにおける小水力発電等の再生可能エネルギー導入 ○地域資源の有効活用やエネルギーの地産地消 ・森林資源、家畜排せつ物由来のバイオガス、堤防除草の刈草等によるバイオマス発電、ボイラー燃料等としての活用 ○徹底した省エネルギーとエネルギー転換 ・急速EV充電施設の設置によるEVの普及促進 ・交通・物流円滑化等の環境負荷軽減に資するインフラ整備、空港・道路等における設備の省エネルギー化の推進 ・国の地方支分部局の水平連携による脱炭素地域づくりに取り組む地方公共団体への支援 (2)エネルギー基地の形成 ○再生可能エネルギー導入・移出等に向けたインフラ整備 ・脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化や水素等の受入環境の整備等を図るカーボンニュートラルポート(CNP)の形成 ・バイオマス燃料の輸入等の再生可能エネルギー導入に寄与する港湾整備・利用 (3)北海道のCO ₂ 吸収力の発揮 ・公共事業におけるブルーカーボン生態系創出	国、道、市町 民間	・漁港施設の強靱化 (2)持続可能な農林水産業の展開 ○持続的な生産体制の構築 ・スマート技術や新たな生産技術の活用による環境負荷の軽減 ○気候変動への対応 ・激甚化・頻発化する水災害に対応した生産基盤整備・治山対策 (3)農林水産業の持続性を支える農山漁村の振興 ○農山漁村の所得と雇用機会の確保 ・地域の風土や特色ある農林水産物・食品を活かしたブランド力の強化 ・豊富な地域資源を活用した農林水産業と他の産業との連携による「北海道マリンビジョン」の推進や、6次産業化、農福連携、農泊等の農山漁村発イノベーションの取組、森林サービス産業、海業の振興 ○農山漁村の自然環境・景観・文化の保全・継承 ・「わが村は美しく北海道」運動、食育、木育等の地域活動の展開や農山漁村に対する理解醸成 ・農林水産業・農山漁村の有する多面的機能の維持・発揮	国、道、市町、 民間
食料安全保障を支える農林水産業・食関連産業の持続的な発展 (1)我が国を先導する農林水産業の生産力強化 ○輸入依存度の高い作物の生産・利用拡大 ・需要に対応した小麦・大豆の生産・利用拡大 ○農業生産力を強化する生産基盤の整備・確保 ・地域特性に応じた高効率・高品質生産を可能とする農業生産基盤及びデジタル基盤の整備 ・グリーン化・デジタル化による農業水利施設の整備及び戦略的保全管理 ・耐震・排水対策等の災害に強い農業生産基盤整備 ○農業生産力を支える経営基盤の強化 ・担い手への農地集積・集約化の加速化と優良農地の確保 ・生産の効率化や経営の高度化等に向けた多様な農業経営の展開 ○水産業の生産力を支える、水産基盤の整備 ・高度衛生管理型の荷さばき所の整備等による拠点漁港等の生産・流通機能強化 ・養殖適地拡大等の漁港の適正利用・有効利用 ・水産生物の生活史に配慮した水産環境の整備	国、道、市町 民間	北海道型地域構造を支え、世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成 (1)産業を支える物流基盤の整備と物流システムの維持・効率化 ・農水産物等の輸送を支える高規格道路の整備 ・輸出入・移出入の拠点となる空港・港湾施設の整備及びフェリー、RO-RO船等に対応した複合一貫輸送機能の維持・強化 ・高規格道路から空港・港湾・鉄道駅等の物流拠点へのアクセスルート確保 地域の強みを活かした成長産業の形成 (1)経済安全保障に貢献する先端産業拠点の形成 ・デジタル産業基盤であるデータセンターの立地促進、高速大容量の通信インフラの整備 (2)地理的・気候的な優位性を活かした産業振興 ・交通物流ネットワークの充実による産業競争力の強化	
		デジタルの活用による生産空間の維持・発展 (1)広大な北海道に適したデジタル基盤の整備 ・デジタル技術を活用した生活サービスの向上や新たな産業創出に資する国・地方公共団体におけるオープンデータ化	国、道、市町、 民間

Ⅲ 地域重点プロジェクト【主に国が実施する地域プロジェクト】

2－（１），３－（１），４－（１） 脱炭素化と食料安全保障を支える地域の強みを活かした産業の展開			
主な取組	実施主体	主な取組	実施主体
官民共創の取組 ○堤防除草刈草の有効活用 推進体制：国、道、市町、民間 ○道の駅を活用した次世代自動車普及促進の取組 取組内容：道の駅へ急速EV充電施設設置 推進体制：国、市町、民間 ○港湾脱炭素化推進協議会の推進 取組内容：脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化の推進 推進体制：国、道、市町、民間 ○胆振海岸直轄海岸保全施設整備事業（支援） 取組内容：白老工区における人エリーフを活用した藻場つくりと漁業振興（Jブルークレジット） 推進体制：国、町、民間 ○北海道マリンビジョンの推進 取組内容：水産業を核とした地域振興方針「地域マリンビジョン」の策定、支援、実現の促進 推進体制：国、道、市町、民間 ○「わが村は美しく-北海道」運動の推進 取組内容：地域の活性化に貢献する優れた活動を行っている団体を表彰 推進体制：国、民間 ○道路占用制度 取組内容：ラピダス建設等に伴う工業用水、電力線設置 推進体制：国、道、民間		室蘭開発建設部の主な基盤整備等 R6実施中 <治水> ・鶴川直轄河川改修事業【再掲】 ・沙流川直轄河川改修事業【再掲】 ・沙流川総合水系環境整備事業 ・胆振海岸直轄海岸保全施設整備事業【再掲】 ・平取町が推進する平取地域イオル再生事業等アイヌ関連事業とかわまちづくりの連携【協働】 ・河川掘削残土を流用した地域の重要施設等のかさ上げ等の流域治水の推進【協働】 <道路> ・日高自動車道 厚賀静内道路【再掲】 ・日高自動車道 静内三石道路（静内～東静内）【再掲】 ・一般国道274号 清瀬防災【再掲】 ・一般国道453号 蟻溪道路【再掲】 ・道路照明設備のLED化 ・メンテナンスサイクルに基づく道路施設の定期点検の実施【再掲】 ・道路施設の老朽化対策（橋梁、トンネル補修）【再掲】 ・自治体が管理する道路施設の直轄修繕代行（白老橋）の実施【再掲】 ・Xroad（全国道路施設点検データベース）の取組 ・交通安全対策の推進【再掲】 ・道の駅への急速EV充電施設設置【共創】 ・電線共同溝事業の実施【再掲】 ・協働型道路マネジメントの実施【再掲】 ・北海道渋滞対策協議会による渋滞対策検討 <港湾・漁港> ・室蘭港予防保全事業【再掲】 ・苫小牧港予防保全事業【再掲】 ・苫小牧港西港区商港地区複合一貫輸送ターミナル改良事業【再掲】 ・苫小牧港東港区浜厚真地区複合一貫輸送ターミナル整備事業【再掲】 ・えりも港予防保全事業【再掲】 ・浦河港本港地区防波堤整備事業【再掲】 ・白老港本港地区国内物流ターミナル整備事業【再掲】 ・直轄特定漁港漁場整備事業（追直地区、登別地区、三石地区、様似地区、庶野地区）【再掲】 ・「北海道マリンビジョン」の推進【共創】 ・港湾脱炭素化推進協議会の推進【共創】 <農業> ・国営かんがい排水事業（勇払東部（二期）地区、新鶴川地区、大原二期地区、美河地区）【再掲】 ・国営緊急農地再編整備事業（伊達地区）【再掲】 ・「わが村は美しく-北海道」運動の推進【共創】 <地域連携> ・ゼロカーボン北海道タスクフォース（相談窓口）	

Ⅲ 地域重点プロジェクト【主に国が実施する地域プロジェクト】

様式3-2

5－(1)、6－(1) 地域固有の文化・景観、自然環境と調和した観「公」と地域づくり

推進主体：国 推進エリア： 道央広域連携地域（胆振・日高）

5 交流／《地域の目指す姿》⑤アドベンチャートラベルの推進など、多彩な地域資源を活用した観光の振興

6 文化・歴史／《地域のめざす姿》⑥ 地域固有の文化や歴史の継承・活用

【プロジェクトの概要】

- ・ 観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり
- ・ アイス文化の振興等
- ・ 自然共生社会・循環型社会の形成
- ・ 多様で豊かな地域社会の形成

主な取組	実施主体	主な取組	実施主体
観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり (1)世界市場に向けた新たな観光コンテンツの創出・拡充と稼ぐ力の向上 ○北海道の資源・特性を活かした新たな観光コンテンツの創出・拡大 ・「かわたびほっかいどう」等の生産空間の魅力的な公共空間を活用した観光コンテンツ創出 ・食・文化やインフラツーリズム等による通年型観光コンテンツの創出 ○観光消費額・観光消費額単価の向上に資する高付加価値な観光の推進 ・世界水準のサイクルツーリズム等による高付加価値な観光の推進 (2)多様な旅行者の地方部への誘客に向けた安全・安心な受入環境整備 ○ゲートウェイ機能の強化と地方部への交通アクセスの改善 ・空港・港湾の受入機能強化、高規格道路の整備、北海道新幹線の整備、交通結節機能強化等とともに運輸事業者や観光事業者が一体となった移動の利便性向上 ・道内一括運営委託7空港と運輸事業者と地域が連携した周遊観光活性化、速達性の更なる向上による移動時間の短縮、安全・安心な移動環境整備等 ○多様な旅行者が安全安心に旅行できる環境の創出 ・多言語等による交通情報・医療情報の提供やガイド育成等の安全管理の充実 (3)自然環境・文化の保全と観光が両立した持続可能な観光地域づくり ○サステナブルツーリズムの推進 ・環境に配慮したドライブ観光の推進 ○多様な主体との連携による地域資源を活用した持続可能な観光地域づくりの推進 ・「シーニックバイウェイ『秀逸な道』」や「みなとオアシス」等の自然環境・文化や景観と観光が両立した地域との協働による観光地域づくり ○北海道が世界に誇る文化資源の保全・継承による地域資源を活用した観光地域づくり ・北の縄文遺跡を始めとする道内各地の遺跡やジオパーク、炭炭港等の日本遺産、北海道の馬文化等の北海道遺産等を活用した観光地域づくり ○観光を支える担い手の育成・確保 ・地域協働を通じた地域コミュニティの担い手の育成・確保	国、道、市町、民間	・景観に配慮した防雪林整備や地域と協働した維持管理等の北海道の地域特性を活かした道路整備・維持管理 ○生物多様性の保全 ・生物多様性の保全に配慮した多自然川づくり、自然再生事業、農業生産、森林施業等の推進 ○鳥獣被害に係る総合的な対策 ・防護柵等の被害防止施設の整備及び捕獲事業の強化 (2)資源を最大限に利活用する循環型社会の形成 ○廃棄物等の有効利用 ・建設発生土等の有効利用の促進及び普及啓発 ・建設副産物における付加価値の高い再生材へのリサイクルを促進するなど建設リサイクルの「質」の向上 多様で豊かな地域社会の形成 (1)人への投資と多様な人材・主体による共創 ・「ほっかいどう学」による地域に貢献する若い世代の育成 ・シーニックバイウェイ北海道等による地域の魅力向上や活性化 ・企業等による地域社会を支える取組 (2)多様な暮らし方・働き方の実現 ・北海道への移住・二地域居住、Uターン・I ターンの取組 官民共創の取組 ○・鶴川沙流川サイクリングwithかわたび×日高シーニックバイウェイの開催 - 取組内容:河川空間や道路を活かして地域の賑わい創出を目指す - 推進体制:国、町、民間 ○シーニックバイウェイ北海道、シーニックバイウェイ「秀逸な道」 - 取組内容:道路景観を活用した地域活性化の支援 - 推進体制:国、町、民間、教育機関 ○「みなとオアシス」を核としたまちづくりの活動支援 - 取組内容:「みなとオアシス室蘭」「みなとオアシス苫小牧」を活用した地域振興の活動支援 - 推進体制:国、市町、民間 ○地域共創インフラツアー - 取組内容:地域観光振興に資する活動に対する魅力ある公的施設・インフラの解放(平取町) - 推進体制:国、町、民間 ○白鳥大橋を活用したインフラツーリズム - 取組内容:公共施設(インフラ)を活用した地域活性化の支援 - 推進体制:国、市、民間	国、道、町、民間 国、道、市町、民間
アイヌ文化の振興等 ・アイヌ文化の振興及びアイヌの伝統等に関する知識の普及啓発 ・アイヌの人々が民族としての誇りを持って生活するためのアイヌ文化の振興等に資する環境の整備に関する取組	国、道、町、民間		
自然共生社会・循環型社会の形成 (1)北海道の特性を活かした自然共生社会の形成 ○官民一体となったグリーンインフラの取組の推進 ・かわまちづくり等の自然と共生する環境整備	国、道、市町、民間		

Ⅲ 地域重点プロジェクト【主に国が実施する地域プロジェクト】

5－（１），6－（１） 地域固有の文化・景観、自然環境と調和した観「公」と地域づくりプロジェクト			
主な取組	実施主体	主な取組	実施主体
○道の駅の取組 取組内容：多言語による観光地案内の整備 推進体制：国、市町、民間 ○縄文文化を通じた国際的な価値創造に向けた取組 取組内容：地域資源を活用した地域振興 推進体制：国、道、町、民間 ○平取町アイヌ文化振興公社による大学生と連携した地域文化の振興を図るワークショップの実施 推進体制：国、町、民間 ○平取町アイヌ文化振興公社によるかわまちづくり整備箇所（水辺空間）のヨシ等を用いたチセ（アイヌの伝統的住居）の屋根等の修繕作業の取組 推進体制：国、町、民間 ○むかわ町が推進する民間事業者によるSUP等アクティビティの誘致とかわまちづくりの連携 推進体制：国、町、民間 ○ほっかいどう学みち学習プロジェクト 取組内容：胆振日高のみち学習検討会 推進体制：国、市町、民間、教育機関 ○教育機関との共創による人材育成（インターンシップ、現場見学会等） 推進体制：国、市町、民間、教育機関		室蘭開発建設部の主な基盤整備等 R6実施中 <治水> ・沙流川総合水環境整備事業【再掲】 ・鶴川沙流川サイクリングwithかわたび×日高シーニックバイウェイの開催【共創】 ・平取町アイヌ文化振興公社による大学生と連携した地域文化の振興を図るワークショップの実施【共創】 ・平取町アイヌ文化振興公社によるかわまちづくり整備箇所（水辺空間）のヨシ等を用いたチセ（アイヌの伝統的住居）の屋根等の修繕作業の取組【共創】 ・平取町が推進する平取地域イオル再生事業等アイヌ関連事業とかわまちづくりの連携【協働】【再掲】 ・むかわ町が推進する民間事業者によるSUP等アクティビティの誘致とかわまちづくりの連携【共創】 ・むかわ町が推進する既設施設の活用・充実・強化とかわまちづくりの連携【協働】 ・河川掘削残土を流用した地域の重要施設等のかさ上げ等の流域治水の推進【協働】 <道路> ・日高自動車道 厚賀静内道路【再掲】 ・日高自動車道 静内三石道路（静内～東静内）【再掲】 ・シーニックバイウェイ北海道、シーニックバイウェイ「秀逸な道」【共創】 ・白鳥大橋を活用したインフラツーリズム【共創】 ・道路情報板による情報発信（洞爺湖有珠山、アポイ岳ジオパーク） ・多言語による道路情報提供 ・多言語による観光地案内（道の駅）【共創】 ・道の駅施策の推進（第3ステージの取組） ・室蘭開発建設部管内道の駅連絡推進会議【協働】 ・交差点地点名表示の改善 ・協働型道路マネジメントの実施【再掲】 ・サイクルツーリズムの推進 <港湾・漁港> ・室蘭港予防保全事業【再掲】 ・苫小牧港東港区浜厚真地区複合一貫輸送ターミナル整備事業【再掲】 ・みなとオアシス活動支援【共創】 <地域連携> ・地域の観光振興に資する活動に対する魅力ある公的施設・インフラの解放（地域共創インフラツアー）【共創】 ・白鳥大橋を活用したインフラツーリズム【共創】【再掲】 ・縄文文化を通じた国際的な価値創造に向けた取組（伊達洞爺湖ミュージアム地域振興ブラットホーム）【共創】 <技術管理> ・教育機関との共創による人材育成（インターンシップ、現場見学会等）【共創】	

Ⅲ 地域重点プロジェクト【主に道が実施する地域プロジェクト】

様式3-2

1-(2), 3-(2), 5-(3), 7-(2) 住みたい・訪れたい「いぶり」地域づくりプロジェクト

推進主体： 道 推進エリア： 道央広域連携地域（胆振）

- 1 強靱な国土づくり／《地域のめざす姿》①誰もが健康で安心して暮らせるまちづくりの推進
 3 農林水産業・食関連産業／《地域の目指す姿》③地域の特色を活かした多種多様な農林水産業の展開
 5 観光／《地域の目指す姿》⑤アドベンチャートラベルの推進など、多彩な地域資源を活用した観光の振興
 7 ネットワーク／《地域の目指す姿》⑦交流を支える基盤整備の促進

【プロジェクトの概要】

胆振地域には、いぶり五大遺産（洞爺湖有珠山ジオパーク、アイヌ文化、縄文遺跡群、むかわ竜、炭鉄港）、ウポポイ、日本有数の温泉地など特色ある豊かな地域資源があります。こうした地域の強みを活かし、関係人口の創出・拡大や新鮮・多彩な食材の魅力発信や販路拡大に取り組むほか、地域の未来を支える人材の確保・育成、胆振東部地震からの復旧・復興、過去の巨大地震や火山噴火等の経験を踏まえた地域防災力を充実・強化するなどして、住みたい・訪れたい地域づくりを推進します。

主な取組	実施主体	主な取組	実施主体
■ 地域資源を活用した関係人口の創出・拡大 ○ 豊富な地域資源（いぶり五大遺産、ウポポイ、食資源等）のさらなる磨き上げ及び情報発信の強化 ○ ウポポイへの誘客促進と管内広域連携による周遊観光の促進 ○ いぶり五大遺産の活用による教育旅行の誘致やアドベンチャートラベルなどの体験型観光の振興 ○ 地域おこし協力隊等との連携による移住・定住の促進 ○ 岩手県三陸地域を中心とした東北各地域との交流やワーケーションを通じた関係人口の創出・拡大 ■ 地域の豊かな食材の魅力発信や販路拡大 ○ ICTの利活用による新鮮・多彩な一次産品の生産・流通の促進 ○ 特色ある食材を活かした商品・メニュー開発及びブランド化の推進、国内外への販路拡大 ■ 地域の未来を支える人材の確保・育成 ○ 関係機関が連携した人材確保対策の推進、就業体験機会等を通じた地域産業の魅力発信 ○ 管内企業の技術力の情報発信等によるものづくり産業の担い手確保・育成 ○ 就業しやすい環境づくりによる農林水産業の担い手確保・育成 ○ すべての子どもたちが健やかに育つことができる環境づくり ○ ふるさとへの誇りと愛着を育むふるさと教育の推進 ■ 胆振東部地震からの復旧・復興 ○ 地域産業の持続的な振興をはじめとした、復旧・復興方針に基づく取組の推進	国、道、市町、民間、NPO	○ 移住・定住の取組の推進や、地域資源の磨き上げ・活用による被災地域への人の呼び込み強化 ■ 地域防災力の充実・強化 ○ 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震等の地震・津波対策の推進 ○ 火山防災の充実・強化のための訓練実施、計画整備の促進及び啓発活動の強化 ○ 地域における防災活動リーダーの育成促進 【関連する主な基盤整備】 ○ 農産物の安定生産の基盤となる農地や農業用施設の整備 ・ 水田・畑・草地や農業用施設の整備推進 ○ 農地及び農業用施設の機能回復や災害を防止するための施設の整備 ・ 農地や農業用施設の機能回復 ・ 農地及び農業用施設の災害を未然に防止するための施設の整備推進 ○ 水産物供給基地としての漁港・漁場づくり ・ 漁港、漁場などの整備促進 ○ 安心で快適な旅ができる交通ネットワークの整備 ・ 観光拠点へのアクセス道路の整備	

Ⅲ 地域重点プロジェクト【主に道が実施する地域プロジェクト】

様式3-2

1-(4) 「ナナイロひだか」人材確保・育成プロジェクト

推進主体： 道 推進エリア： 道央広域連携地域（日高）

1 強靱な国土づくり／《地域のめざす姿》① 誰もが健康で安心して暮らせるまちづくりの推進

【プロジェクトの概要】

日高地域は、少子・高齢化により一次産業をはじめ各産業の担い手が不足しています。各産業における担い手の確保・育成はもとより、高校や大学との連携による若者のまちづくりに参画する機会の創出、移住・定住の促進、副業や障がい者雇用など多様な働き方の普及をめざします。また、様々な施策に必要とされるデジタルやゼロカーボン分野の知識習得を後押ししていくほか、防災教育の推進、避難訓練の定期的な実施による防災・減災意識の向上を図るなど、地域を支える人材の確保・育成に向けた取組を総合的に進めていきます。

主な取組	実施主体	主な取組	実施主体
■一次産業をはじめとする各産業の担い手等の確保・育成 ○管内外の就業希望者への情報提供、新規就農者の離農防止に向けた取組の推進 ○新規就業者への研修や技術指導、給付金の交付などによる支援の実施 ○地域の受入体制の整備や関係団体の取組の推進 ○住民と外国人が互いの文化等を理解・尊重し合うことができる多文化共生社会の理解促進 ○ダイバーシティの普及による働きやすい環境づくり ■高校や大学と連携・協働した人材の育成 ○インターンシップや就業体験の実施 ○馬文化出前教室の開催や調理を学ぶ学生への日高産水産物の提供、就業フェア等による地域産業への理解の促進 ○高校生や大学生を中心とした若者が地域の課題解決に向けた検討を行うプロジェクトの企画・実施 ○教育機関と連携した防災教育の実施 ○高校生を対象とした北海道地域防災マスター認定・フォローアップ研修の実施 ■移住・定住の促進などによる人材の確保 ○地域おこし協力隊の任用とネットワークづくりの推進 ○振興局職員を中心とした副業活動の拡大と地域の実情を踏まえた兼業の普及 ○SNS等のインターネットを活用した一元的な情報発信などによる、管内各町、団体等と連携した移住・定住の促進 ○地域医療の確保や福祉の充実 ■防災・減災など地域を支える人材の育成 ○デジタル技術の活用やゼロカーボンを推進する人材の育成	国、道、町、民間	○地域公共交通の維持・確保に向けた交通人材の育成 ○地域での防災活動のリーダーとなる人材の育成 【関連する主な基盤整備】 ○農産物の安定生産の基盤となる農地や農業用施設の整備 ○水産物供給基地としての漁港・漁村づくり ・漁港整備 ○水産資源の増大等に向けた施設づくり ・増養殖場の造成、漁場の整備 ○健全な森林整備と保全の推進 ○高規格道路の整備 ・日高自動車道の整備促進	

Ⅲ 地域重点プロジェクト【主に道が実施する地域プロジェクト】

様式3-2

2-(2), 4-(2), 7-(3) 脱炭素社会を創造する「いぶり」産業展開プロジェクト

推進主体： 道 推進エリア： 道央広域連携地域（胆振）

- 2 脱炭素化／《地域のめざす姿》②「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた、豊かな自然環境と調和する地域社会の構築
 4 産業／《地域のめざす姿》④デジタル関連産業の集積をはじめ、本道経済をリードする産業の活性化
 7 ネットワーク／《地域の目指す姿》⑦交流を支える基盤整備の促進

【プロジェクトの概要】

胆振地域は、鉄鋼や自動車関連などの「ものづくり産業」が集積する産業拠点があり、国際拠点港湾や近隣に道内最大の空港を有した本道経済をリードする地域である一方、豊かな自然環境に恵まれ、太陽光や風力、バイオマス、地熱といった豊富に賦存する多様なエネルギー源の活用のほか、水素の活用や二酸化炭素の分離・回収・貯蔵に関する実証試験など、脱炭素型社会の実現に向けた取組を積極的に進めている地域です。
 こうした胆振の地域特性を活かし、「ゼロカーボン北海道」の実現に向け、本道の脱炭素化をリードするとともに、産業の持続的な発展に取り組みます。

主な取組	実施主体	主な取組	実施主体
■多様なものづくり産業拠点の形成促進 ○ものづくり産業拠点の重層化 ○半導体関連企業などの立地促進 ○脱炭素型の地域づくり及び関連産業の創出 ■産官学金連携などによる地域の強みを活かした産業の振興 ○地域の伝統、脱炭素・先端技術の集積等の地域の強みを活かした産業の育成・振興 ○恵まれた物流アクセス環境を活かした移輸出拡大 ■再生可能エネルギーの普及や自然環境の保全などによる脱炭素化の取組促進 ○太陽光、風力などの再生可能エネルギーや水素エネルギーの活用に向けた機運醸成 ○脱炭素型のライフスタイルやビジネススタイルへの転換に向けた普及啓発 ○地域住民や企業との協働による自然環境の保全に向けた取組の促進 ○計画的・効率的な造林や間伐、地域材の利用拡大など森林資源の循環利用の推進	国、道、市町、民間、NPO	【関連する主な基盤整備】 ○物流ネットワーク形成のための道路網の整備 ・高規格道路と一体となった道路網の整備促進 ○産業拠点の形成に向けた施設の整備 ・地域の優位性を活かした企業立地を一層促進するための基盤整備 ○自然豊かな水辺環境の整備・保全 ・環境に配慮した河川・砂防施設などの整備促進 ○健全な森林の整備と保全の推進 ・森林の有する多面的機能を高度に発揮させるための森林の整備促進	

Ⅲ 地域重点プロジェクト【主に道が実施する地域プロジェクト】

様式3-2

2-(3), 3-(3)「ナナイロひだか」産業振興プロジェクト			
推進主体： 道 推進エリア： 道央広域連携地域（日高）			
2 脱炭素化／《地域のめざす姿》②「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた、豊かな自然環境と調和する地域社会の構築 3 農林水産業・食関連産業／《地域のめざす姿》③ 地域の特色を活かした多種多様な農林水産業の展開			
【プロジェクトの概要】 日高地域は国内の約8割を占める軽種馬生産に加え、全道一の生産量を誇るトマトやピーマン、デルフィニウムのほか、地域ブランドとして確立しているびらとり和牛、みついし牛、日高昆布や銀聖（鮭）、王蝶（マツカワ）など様々な農水産物に恵まれています。また、14振興局の中で最も総面積における森林割合が高いなど、豊富な森林資源も有しています。 こうした恵まれた農林水産物の生産振興策に引き続き取り組むとともに、「ひだか」製品の知名度向上と販路拡大に向け、デジタル技術を活用した効率化を図りながら、環境と調和のとれた持続可能な産業振興をめざします。			
主な取組	実施主体	主な取組	実施主体
■農林水産業の持続的発展に向けた生産振興対策の推進 ○高収益作物の生産拡大による農業経営の安定化 ○クリーン農業やブルーカーボンなど各分野における環境負荷軽減と脱炭素化の推進 ○適切な森林整備に伴い産出される木材の高付加価値化の推進 ○管内農水産物に係る生産安定化対策の推進や6次産業化・ブランド化等の高付加価値化 ○安定した収益が見込める魚種による栽培漁業の推進 ○鳥獣被害防止対策の推進 ○農林水産業におけるICT化の推進 ■強い馬づくりに向けた軽種馬生産 ○強い馬づくりのための生産振興支援 ○軽種馬経営の構造改革に向けた取組支援 ○ホッカイドウ競馬運営への支援 ■「ひだか」製品の知名度向上と販路拡大 ○商品開発力・マーケティング力強化 ○「ひだか」製品の販路拡大 ○「ひだか」製品のプロモーション ■移住・定住の促進などによる人材の確保（再掲） ○地域おこし協力隊の任用とネットワークづくりの推進 ○振興局職員を中心とした副業活動の拡大と地域の実情を踏まえた兼業の普及 ○SNS等のインターネットを活用した一元的な情報発信などによる、管内各町、団体等と連携した移住・定住の促進 ○地域医療の確保や福祉の充実	国、道、町、民間	【関連する主な基盤整備】 ○農産物の安定生産の基盤となる農地や農業用施設の整備 ○水産物供給基地としての漁港・漁村づくり ・漁港整備 ○水産資源の増大等に向けた施設づくり ・増養殖場の造成、漁場の整備 ○健全な森林整備と保全の推進 ○高規格道路の整備 ・日高自動車道の整備促進	

Ⅲ 地域重点プロジェクト【主に道が実施する地域プロジェクト】

様式3-2

5-(2), 6-(4) ジオパークの連携による関係人口等の創出・拡大プロジェクト

推進主体： 道 推進エリア： 道央広域連携地域（胆振・日高）、その他地域（上川、オホーツク、十勝）

- 5 観光／《地域の目指す姿》⑤アドベンチャートラベルの推進など、多彩な地域資源を活用した観光の振興
6 文化・歴史／《地域の目指す姿》⑥ 地域固有の文化や歴史の継承・活用

【プロジェクトの概要】

道内には、洞爺湖有珠山、アポイ岳、白滝、三笠、とかち鹿追、十勝岳地域の6つの日本ジオパークがあります。このうち洞爺湖有珠山とアポイ岳がユネスコ世界ジオパークに認定されているほか、上川中部地域において大雪山カムイミッタラジオパーク構想推進協議会が、日本ジオパークの認定を目指して活動しています。ジオパークは重要な地域資源として、その保護に取り組むことだけではなく、環境教育のほか、火山災害などの防災教育における教材としての活用、歴史や地質など各地域の特色を活かした観光振興や地域振興に繋がることが期待されます。このためジオパークの魅力を活かした各地域における特色ある取組や、地域間及び北東北3県等との連携を通じて、更なる観光誘客や関係人口等の創出・拡大等に努めます。

主な取組	実施主体	主な取組	実施主体
■各地域におけるジオパークを活かした特色ある取組の促進 ○ジオサイトや食の魅力発信、体験ツアーの実施 ○ジオの恵みやストーリー性を活かした関連商品・サービスの創出 ○ジオパークを題材とした環境教育・防災教育・ふるさと教育の推進 ○ジオパークを舞台としたスポーツ大会など特色あるイベントの開催 ■各ジオパーク（構想）推進協議会・関係団体のネットワークを活用した更なる魅力の向上、関係人口の創出・拡大 ○道内ジオパークに係る総合的な情報発信 ○歴史や文化をまとめた北海道のジオストーリーの発信 ○北海道のジオストーリーを活用した道内ジオパーク周遊のしかけ作り ○国内外からの誘客促進とガイドや団体の育成等の受入体制の整備促進 ○ジオパークに携わる多様な主体による学びの機会の創出	国、道、市町村、民間	【関連する主な基盤整備】 ○安心で快適な旅ができる交通ネットワークの整備 ・観光拠点へのアクセス道路の整備	

Ⅲ 地域重点プロジェクト【主に道が実施する地域プロジェクト】

様式3-2

5-(4)「ナナイロひだか」魅力向上・発信プロジェクト

推進主体： 道 推進エリア： 道央広域連携地域（日高）

5 観光／《地域の目指す姿》⑤アドベンチャートラベルの推進など、多彩な地域資源を活用した観光の振興

【プロジェクトの概要】

日高地域は広大な牧場風景に加え、ユネスコ世界ジオパークのアポイ岳や日高山脈から襟裳岬に連なる変化に富んだ海岸線など、豊かな自然環境を有しています。また、道内でも多くのアイヌの人たちが居住し、特色ある文化・風習が継承されている地域であるとともに、多様な食材の宝庫でもあります。

日高山脈襟裳十勝国立公園の誕生や高規格道路の延伸を踏まえ、民間企業や団体と連携しながら「ひだか」の魅力をより一層向上させ、積極的に情報発信していくとともに、住民や観光客の防災リスクを考慮した上で、広域連携によるプロモーションの強化、デジタル技術を活用した観光客の利便性向上を図ることで、関係人口の創出・拡大をめざします。

主な取組	実施主体	主な取組	実施主体
■札幌・胆振・十勝圏域などからの誘客を図る広域観光の推進 ○アイヌ文化や競走馬など、地域資源を組み合わせた広域観光ルートの創出や情報発信 ○自然保護と利用が両立した誘客促進 ○観光関連の民間事業者間の連携促進 ■豊かな自然や食などを活かした観光地づくりと受入体制の充実 ○馬産地やアイヌ文化など、地域固有の文化や風土を活かした観光商品の開発 ○観光の持続可能な発展を支える人材やガイド等の育成 ○国や町、企業・団体との連携による地域が一体となった誘客活動 ○デジタル技術を活用した観光コンテンツの造成や体験価値の向上 ■国内外に向けた「ひだか」の魅力の発信 ○各種イベント、キャンペーンなどによるPR活動の実施 ○SNSなどインターネットを活用した効果的な情報発信 ○民間企業と連携した情報発信 ■「ひだか」製品の知名度向上と販路拡大【再掲】 ○商品開発力・マーケティング力強化 ○「ひだか」製品の販路拡大 ○「ひだか」製品のプロモーション	国、道、町、民間	【関連する主な基盤整備】 ○高規格道路の整備 ・日高自動車道の整備促進 ○安心で快適な旅ができる交通ネットワークの整備 ・日高自動車道の整備促進 ・道道の整備促進	

Ⅲ 地域重点プロジェクト【主に道が実施する地域プロジェクト】

様式3-2

6-(2) 日本遺産「炭鉄港」を活用した交流人口拡大プロジェクト

推進主体： 道 推進エリア： 道央広域連携地域（胆振）

6 文化・歴史／《地域の目指す姿》⑥ 地域固有の文化や歴史の継承・活用

【プロジェクトの概要】

日本遺産認定から、PR資材の整備やガイドの育成、地元への周知活動によるシビックプライドの醸成などを行うことで、知名度向上はもとより、協力事業者の拡大など着実に推進体制を充実させてきました。

これらの資産を活かし、様々な主体と連携しながらプレミアム旅行商品の造成や関連商品・サービスの開発などインバウンドも見据えた稼ぎの仕組みに磨きをかけるとともに、スルーガイドの育成をはじめとした、地域のプレイヤー育成を継続し、交流人口の拡大と雇用の創出を図ります。

主な取組	実施主体	主な取組	実施主体
■プレミアム旅行商品の造成など具体的に稼ぐ仕組み作り ○旅行事業者と連携したプレミアム旅行商品等の造成 ○学生をはじめ、多様な価値観を取り入れた商品開発 ○教育旅行の誘致など人流の確保 ■地域のプレイヤーを育成し、活躍の場、雇用の創出 ○スルーガイドの養成など、プレミアム旅行商品等のガイドを担える人材の育成 ○造成した商品を民間主導で継続販売していく体制の整備 ○取組を持続可能とするため、商品開発やPR活動における企業や大学等との連携	国、道、市町、民間	【関連する主な基盤整備】 ○安心して快適な旅ができる交通ネットワークの整備 ・観光拠点へのアクセス道路の整備 ・統一的なイメージ形成に資する案内標識などの情報基盤の整備推進	

Ⅲ 地域重点プロジェクト【主に道が実施する地域プロジェクト】

様式3-2

6-(3) アイヌ文化等の地域資源を活かした日胆地域活性化プロジェクト			
推進主体： 道 推進エリア： 道央広域連携地域（胆振・日高）			
6 文化・歴史／《地域の目指す姿》⑥ 地域固有の文化や歴史の継承・活用			
【プロジェクトの概要】 アイヌ文化復興・発展の拠点として、ウポポイ（民族共生象徴空間）が整備されたことから胆振・日高地域がより一層連携するなど、アイヌ文化を核とした胆振・日高地域の魅力ある地域資源を一体的に発信し、相互に観光誘客を図る広域観光の促進により、関係人口※の創出・拡大を図ります。			
主な取組	実施主体	主な取組	実施主体
■胆振・日高地域が有する地域資源の魅力の発掘・磨き上げ ○アイヌ文化などの地域の歴史・文化の理解・体験機会の創出 ○2つのユネスコ世界ジオパーク※（洞爺湖有珠山、アポイ岳）の更なる魅力の向上・発信 ○日本最大の軽種馬生産地域としての魅力の向上・発信 ○モニターツアーの実施などによる新たな地域資源の発掘 ○豊かな大地と海の食材など地域産品を活用した食のブランド力向上 ■地域の強みの国内外発信等による新たな人の流れの創出 ○ウポポイ誘客促進戦略（国土交通省北海道局が策定）に基づく国の取組との連携等による誘客及び広域周遊の促進 ○アイヌ文化やジオパークなどの地域の歴史・文化をテーマとした教育旅行の誘致 ○海岸線や湖畔、牧場地帯などの豊かな風景を楽しむサイクルツーリズムの促進 ○支笏洞爺国立公園・日高山脈襟裳十勝国立公園の魅力や登山情報の発信 ○日高自動車道の延伸を契機とした周遊観光の促進	国、道、市町、民間	【関連する主な基盤整備】 ○安心で快適な旅ができる交通ネットワークの整備 ・観光拠点へのアクセス道路の整備	

Ⅲ 地域重点プロジェクト【主に道が実施する地域プロジェクト】

様式3-2

6-(5) 縄文遺跡群などを活用した魅力発信と誘客促進プロジェクト

推進主体： 道 推進エリア： 道南連携地域（渡島、檜山）、その他地域（石狩・胆振）

6 文化・歴史／《地域の目指す姿》⑥ 地域固有の文化や歴史の継承・活用

【プロジェクトの概要】

令和3年（2021年）7月に「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産に登録決定され、北海道初の世界文化遺産が誕生しました。

地域にはこの世界遺産となった遺跡の他にも、北海道初の国宝である中空土偶をはじめとする数多くの縄文の出土品や遺跡が見つかっています。

また、平成29年（2017年）には、江差町並びに函館市及び松前町の歴史的魅力や特色を通じた伝統を語るストーリーが日本遺産として認定されたほか、北海道遺産や特徴的な文化財などが数多くあります。

これら先人から受け継いだ貴重な財産への理解を深め、郷土の誇りと愛着を再認識することで、次世代へ継承していくとともに、これらの魅力ある地域資源を活用し、観光など地域産業の活性化に繋げていく必要があります。

このため、市町村をはじめ、関係団体や地域住民等と連携を図りながら貴重な資源を最大限活用した取組を推進し、魅力あふれる地域づくりに取り組んでいきます。

主な取組	実施主体	主な取組	実施主体
■縄文文化の魅力発信と次世代への継承の推進 ○若年層を中心とした縄文文化の魅力や価値の理解促進 ○地元高校生による幼児・児童向けに縄文の魅力を伝える普及活動等の実施 ○公共交通機関等へパンフレット（多言語）等の設置やSNS等を活用した情報発信 ○パネル展の実施のほか、イベントやメディアを活用した普及啓発 ○地域の縄文展示施設の利用促進 ■縄文遺跡群をはじめとする地域資源を活用した誘客促進 ○縄文コンテンツを活用した観光への利活用の推進 ○日本遺産などの地域資源を活用した商品開発・販売の促進 ○構成資産を有する関係県とのイベントなどを通じた交流や誘客促進 ○縄文コンテンツの充実のほか、受入環境や二次交通の整備によるアドベンチャートラベルの推進	国、道、市町村、民間		